

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

FEBRUARY
2026

2

昭和医科大学新聞 通巻 第629号
(偶数月発行)

2026年 年頭のご挨拶
寮祭2025～bloom～を開催



Contents

2

FEBRUARY
2026

2

Greetings

年頭のご挨拶

小口 勝司理事長 上條 由美学長

4

Student Life

「寮祭2025～bloom～」を開催

8

初年次体験実習報告

「実習を通して学んだ

昭和医科大学マインド」

7

Special Feature

本学職員の早瀬久美さんが

東京2025デフリンピックで入賞

10

Press Release

救命行動への不安低減に画期的な解決策をもたらす、

トレーニングツール「iris(アイリス)」にグッドデザイン賞

「百敷や 古き軒端のしのぶにも」と百人一首に詠まれた

シダ植物“軒忍”的新種を発見、「タジマノキシノブ」と命名

乳がん治療研究でプレーン・ランゲージ・サマリー公開

専門知識を持たない人々にもわかりやすい情報提供を

認知症による時間感覚の変化を、脳血流解析が予測

患者の早期発見や生活支援への応用を期待

12

News & Topics

医学部白衣授与式を挙行

合同防災訓練を実施

秋期公開講座を各施設で開講

小学生医療体験プログラム2025

永年勤続者表彰式を挙行

富士吉田オープンキャンパスを開催ほか

23

Database

令和7年度科学研究費

助成事業採択課題一覧

保健医療学研究科 富士吉田教育部

研究所・法人 6月以降の新規採択課題

入学試験結果

総合型選抜・学校推薦型選抜・卒業生推薦・編入学

看護専門学校 大学院保健医療学研究科

永年勤続者表彰

28

Meeting Report (学内会議報告)

30

Information



2026年 年頭のご挨拶



学校法人昭和医科大学 理事長

小口 勝司

新年おめでとうございます。昨年は本学の教育・研究・診療の各方面および運営において、職員・学生・保護者および関係者の皆様に多大なご助力をいただき、誠にありがとうございました。

令和8年は、創立100周年記念事業を中心に様々な事業計画を進めてまいります。翌年には、鷺沼キャンパス開設、保健医療学部新学科新専攻開設および横浜看護専門学校の開設を控えており、未来につながる重要な年です。皆様一人ひとりの力が本学の未来を形づくります。皆様の健康と活躍を心から祈念し、共に充実した一年を築いてまいりたいと思います。



昭和医科大学 学長

上條 由美

あけましておめでとうございます。昨年5月に学長に就任して以来、学生の皆さんの学修に臨む真摯な姿勢、それを支える教育職員の心あるご指導と、事務職員の多大な貢献を実感しました。本学に関わり支えてくださった皆様に対し、心より感謝申し上げます。

学生には、失敗を恐れず、勉強・課外活動・ボランティア活動等において様々な経験を通して成長を重ねてほしいと思います。職員・保護者および関係者の皆様には、その歩みを支える力となっていただきたいと願っております。

本年も力を合わせて、共に飛躍を遂げてまいりましょう。



富士吉田での最高の思い出

実行委員長 医学部 大川 さくら

寮祭では委員長として、準備から当日の運営までを担当しました。思うように調整が進まず、焦りや戸惑いを感じる場面も多くありました。副委員長をはじめ部門長や委員一人ひとりが寮祭に対して強い想いをもって取り組んでくれ、支えられながら開催にこぎつけることができました。当日、楽しそうに過ごす学生の姿を目にし、これまでの努力が報われたと心から感じ、胸が熱くなった瞬間でした。忘れない光景です。

学生生活

寮祭2025 ～bloom～を開催

11月21日(金)・22日(土)の2日間、富士吉田キャンパスで寮祭を開催した。

今年のテーマは『bloom』。

「いろいろな個性と才能と夢を持つ学生全員が、それぞれの内にある花を存分に咲かせ、また互いの花が咲くのをサポートしあえる寮祭にしたい」という思いが込められている。

初日の21日にはイルミネーション点灯式が行われ、

キャンパス内に準備されたイルミネーションが点灯すると、学生たちからは歓声が上がった。

点灯式の後、代表学生によってキャンプファイヤーに火が灯されると、

学生たちはその炎を囲んで輪になり、音楽に合わせてリズムに乗るなど、

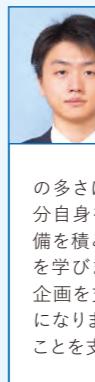
ゆったりとした時間を楽しんだ。

22日には、模擬店やスタンプラリー、学生有志によるライブステージなど、

来場者を楽しませる多彩なプログラムが展開され、

閉会式では色鮮やかな打ち上げ花火が夜空を彩った。

地域の方や学生の保護者をはじめ多くの方にご来場いただき、盛況のうちに終了した。



全員で成功させた寮祭

ライブ部門長 医学部 星野 気佑

様々な人の協力があって、寮祭ライブ部門としての活動を無事に終えることができました。直面したトラブルの多さに、私たちが圧倒される場面もありましたが、全ての経験が自分自身を成長させてくれたと感じています。このことから「丁寧な下準備を積み重ねることこそが、成功への何より確かな第一歩である」ことを学びました。また、富士吉田キャンパスには、学生・職員を問わず、企画を支えようと協力して下さる方が多くいらっしゃり、本当に感謝話になりました。最後にこの場を借りて、副部門長をはじめとした、私のことを支えてくれた皆さんに心より感謝申し上げます。



新しい寮祭

イベント部門長 薬学部 津久井 葉亜希

今回の寮祭は、昨年とは異なって11月開催となり、準備期間が長くありました。その分気合いも入り、部門員が約30人と少ない中ではありましたが、3つの企画を実施しました。期間中は勉強や寮祭役員の仕事、実習などが重なり、気持ちが下がってしまう時もありましたが、寮祭当日に「楽しかった」という言葉を多くの方からいただき、頑張って良かったと心から感じました。また、部門員も忙しい中、会議や制作に参加してくれました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



支え合いが形になった模擬店

模擬店部門長 薬学部 森本 春菜

部門の仕事として多くの方々とやり取りをする中で、いくつかのトラブルもありましたが、出店団体の学生の高い熱意や、先生方、事務課の方々からの支えがあり大規模な34団体の模擬店を無事に終えることができたと思います。

個人としても、周囲を頼ることで生まれる温かさを感じるとともに、組織を率いる立場として物事を成功に導くことの難しさを実感できた良い経験でした。

模擬店の実施にあたりご協力いただいたすべての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



仲間とともに走ってきて

副実行委員長 医学部 道 綾乃

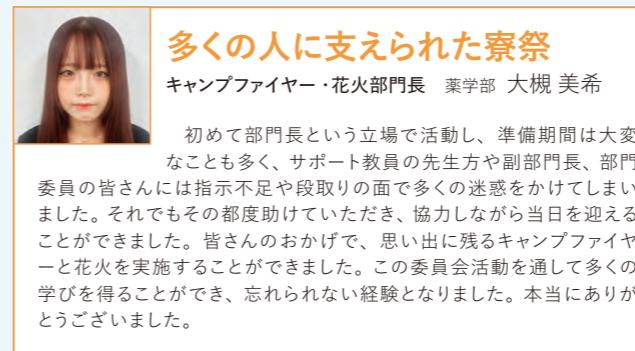
寮祭の執行部を務めさせていただき、同時に進行する8部門をうまく調節することの難しさを感じました。ですが、部門長の皆さんのが準備の段階で困っていることがあれば役に立てるようにと総務として動き回り、一人ひとりとの連携の大切さも学ぶことが出来ました。当日の、学生やご来場のみなさまの楽しそうな笑顔に胸が熱くなった経験は一生の宝物です。約半年の活動で、仲間との絆も深まる貴重な経験をさせていただいたことを実感しました。



仲間とつくった最高の寮祭

副実行委員長 医学部 姫野 紗々良

寮祭では副実行委員長として会計を担当しました。執行部として仕事をする中で、想像以上に多くの見えない仕事があることを知りました。大変なことも多かったですが、当日学生一人ひとりが生き生きと輝いている姿を目にし、これまでの苦労が報われ、努力てきて本当によかったです。仲間に協力を仰ぐ姿勢と感謝を大切にし、幹部それぞれが役割と、それに対して責任を持ってチームで進めた経験はとても貴重でした。



多くの人に支えられた寮祭

キャンプファイヤー・花火部門長 薬学部 大槻 美希

初めて部門長という立場で活動し、準備期間は大変なことも多く、サポート教員の先生方や副部門長、部門員の皆さんには指示不足や段取りの面で多くの迷惑をかけてしまいました。それでもその都度助けていただき、協力しながら当日を迎えることができました。皆さんのおかげで、思い出に残るキャンプファイヤーと花火を実施することができました。この委員会活動を通して多くの学びを得ることができ、忘れられない経験となりました。本当にありがとうございました。



寮祭を飾る
装飾展示部門長 歯学部 酒井 亮輔

今回装飾部門ではイルミネーション、正面ゲート、アーチ、ランタン、フォトスポットを制作しました。アイデアを出す段階では“こうしたい”という案が沢山出たのですがいざ実現するとなると難しいことが多く、本当に完成するのか不安になることもあります。しかしながら寮祭幹部の方々や先生、部門員の協力もあって無事完成することができました。僕たちの装飾を生徒や来場者の方々が楽しんでいただけたのなら幸いです。携わってくださった方々に心から感謝します。本当にありがとうございました。

多くの協力によって支えられた寮祭
デジタル部門長 医学部 吉岡 祐人

今年度の寮祭は例年とは異なる秋開催となり、さらに準備期間が初年次体験実習と重なる大変な時期でしたが、部門員の皆さんのが積極的に役割を果たしてくださいり、準備全体を大きく支えてくれました。ポスターやパンフレット制作、写真撮影など、多岐にわたる作業が着実に形になったのは、部門員一人ひとりの力のおかげだと感じています。また、執行部や先生方、職員の方々に加え、地域の企業の皆さんからも協賛をいただき、多くの支えの中で寮祭に関わることができました。部門長として非常に貴重な経験となりました。



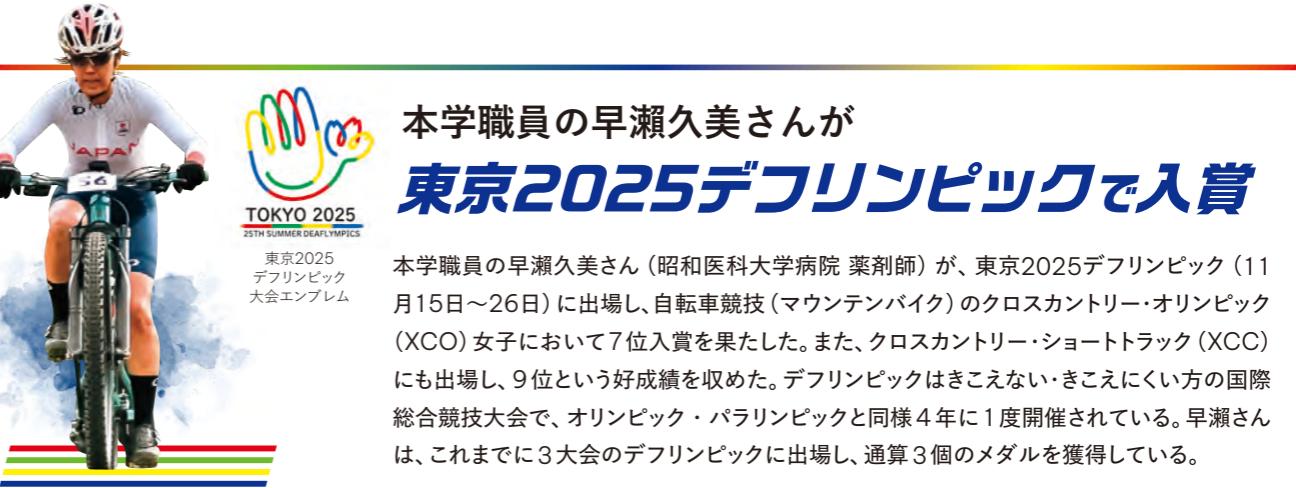
寮祭を通して得たつながり
物品管理部門長 医学部 下永 乃愛

物品管理部門長を務めて、多くのことを経験することができました。他部門や先生方、事務課の方々と連携を取り合うことが多い部門であり、寮祭がたくさんの人によって成り立っていることを実感しました。直前に立て込むこともありましたが、部門員10人という少数の中、無事に寮祭を終えることができたのは周囲の支えがあったからであると思います。協力してくださったすべての皆様、本当にありがとうございました。



感謝と責任の中で歩んだ寮祭バザー
バザー部門長 薬学部 山本 梢彩

5月にバザー部門長になってからは、わからないことが多いと、どのように進めていけばよいのか本当に迷いました。ですが、たくさんの仲間や先生方、事務課の方々に支えられ、寮祭当日にバザーを無事成功させることができました。バザーの準備を進める中で、自分一人で抱え込むのではなく、誰かに相談したり話し合ったりすることの大切さを学びました。この経験をもとに、これからも活かしていきたいと思います。ありがとうございました。



東京2025デフリンピック自転車競技(マウンテンバイク)競技結果 <https://www.jfd.or.jp/sc/tokyo2025/teamjapan/sr/cycling-mtb>

これまでの成績

ソフィア2013デフリンピック(ブルガリア) マウンテンバイクXCO 銅メダル

サムスン2017デフリンピック(トルコ) マウンテンバイクXCO 銅メダル

ブラジル2021デフリンピック(ブラジル) マウンテンバイクXCO 銀メダル



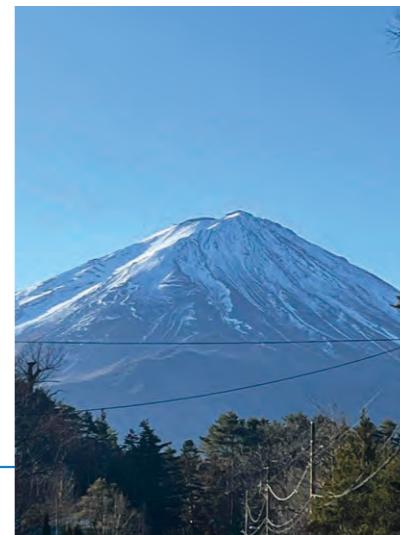
私が初めてデフリンピックに関わったのは2009台北大会で、日本代表選手団携行医薬品の準備および日本代表選手の使用薬物調査を担当しました。それ以来、夏季・冬季合わせて9大会にわたりスポーツファーマシスト(アンチ・ドーピング専門薬剤師)として仕事をしてきました。また、そのうち4大会はアスリートとして二足の草鞋を履いての参加です。アスリートであり薬剤師であるという自分だからできる表現として、今回の東京大会ではその集大成として挑んできました。スポーツを通して世界の人たちとその瞬間を分かち合い、お互いにフェアスポーツを突き詰めて真剣勝負を繰り広げる素晴らしさを改めて感じた大会でした。1人のきこえない薬剤師としてデフリンピック後のいま、本当のスタートラインに立っている感じています。スポーツの世界で薬剤師としてできることをこれからも追求していきたいです。

表紙用応募作品紹介



富士吉田キャンパス赤松寮5階

学生(保健医療学部看護学科1年)
三宅 連太郎



山梨県南都留郡鳴沢村

保護者(保健医療学部看護学科)
草場 樹里子

来年の新春号でも公募を予定しています。
皆様からの応募をお待ちしています。
募集のタイミングや要件は、本年8月号
および10月号に掲載する見込みです。



学生寄稿 初年次体験実習報告

「実習を通して学んだ 昭和医科大学マインド」

10月、約3週間にわたり、学部混合のグループ学習「初年次体験実習」が行われた。

施設実習や病院実習など他学部生とのグループワークを通して、

早期からチーム医療マインドと幅広い視野を養うことを目的としたカリキュラムとなっている。

「初年次体験実習」を終えた学生たちに振り返りや今後の展望を聞いた。



不自由体験実習

視覚の不自由さを 学んだ実習体験



不自由体験実習では専用のゴーグルを装着して視覚が困難になる状態を実際に体験しました。ゴーグルをつけて字を読むと、黒字は問題なく見えたものの、赤や黄色などの暖色系の文字の認識が困難になりました。

後日気になって色覚異常について調べたところ、赤緑色覚異常人が最も多く青黄色覚異常は比較的稀であることや、暖色系同士や寒色系同士の色の組み合わせだと認識しづらい人が多いことも分かりました。

今回の実習は、色覚異常だけでなく様々な不自由を体験することで出た不思議や不自由な体をもつ人の気持ちについて考える良い機会になりました。

病院実習

実習で学んだ 多職種連携の重要性



保健医療学部
看護学科
江村 莉奈

昭和医科大学江東豊洲病院での実習を通し、医療は多職種の連携によって成り立っていることを学びました。薬剤部では、患者さんの症状や状態変化に応じて薬剤を調整し、副作用や服薬しやすさまで考慮して迅速に対応していました。NICU・ICUでは、看護師が常にモニターを確認し安全を最優先に行動しており、実習生であっても異変時には速やかに報告・相談する姿勢が重要だと感じました。また、病院設備や動線、混合病棟の工夫など、環境面からも患者さんの安全・安楽が支えられていることを感じました。高度なシステムと情報共有を基盤に、チーム医療の質を高める重要な性質を実感する実習になりました。

施設実習

施設実習から得た 気づきや学び



医学部
渡邊 真央

私は、富士吉田市内にある支援学校で実習を行わせていただきました。支援学校での学校生活を見学し、実際に児童や先生方と関わる中で、多くの気づきや学びを得ました。特に実習を通して、児童一人ひとりの特性に応じた関わりの重要性を強く実感しました。また、教職員をはじめとする多職種の方々が協働し、チームとして児童を支援している姿が印象に残りました。適切な情報共有を行いながら、状況に応じて柔軟に対応する姿勢は、今後医療者を目指す上で欠かせないものであると感じています。今回の実習で得た貴重な学びを、今後の学習や臨床実習に活かしていきたいです。

救急法実習

いざという時のための 学び



保健医療学部
リハビリテーション学科
作業療法学専攻
上田 彩未

救急法実習では、傷病者への対応の仕方や負傷部位ごとの応急処置の仕方について学びました。私は骨折時の処置として、固定を行う際の三角巾の折り方が難しいと感じたのですが、先生方は工程の多さを感じさせないほど素早くこなしており、その様子に感銘を受けました。また、実際に複数の傷病者を想定した実習を行い、負傷部位や意識の有無に応じた処置方法や医療機関への搬送における優先順位を判断するという実践的な経験から、非常に貴重な学びを得ることができました。今回の実習で得た学びを活かしつつ、救急法についてさらに学んでいきたいと思います。

心肺蘇生法実習

医療人を志す者として



薬学部
本間 ひかり

心肺蘇生法実習では、胸骨圧迫や気道確保からの人工呼吸、AEDの使用方法といった「救命処置の一連の流れ」と、背部叩打法やハイムリック法といった「気道異物の除去方法」の2つを学びました。

今回の実習を通して、実際の現場で的確に人命救助ができるのか、不安と期待を抱くようになりました。この学習では、人命救助の手順や方法を学べるだけでなく、その難しさとともに、命をつなぐことの大切さも実感できます。医療人を志す者として、いざというときに不安なく対応できるよう、その自覚と責任の重さを改めて認識し、これからも知識や技術を磨いていこうと考えています。

学部別実習

歯科病院実習で得た 気づき



歯学部
富士田 ひまり

私は、学部別実習で昭和医科大学歯科病院の小児成育歯科・保存修復科・矯正歯科を見学しました。器具や材料一つ一つに患者さんに合わせた工夫が施されていることを拝見し、口の中という限られた領域を扱うからこそ、一つの処置にも多くの考えや細やかな気配りがあることを知りました。また、治療の場面では患者さんの緊張を和らげる言葉がけや説明が行われており、人と丁寧に向き合う姿勢が欠かせないものであることを学びました。実習を通して歯科医療の魅力を改めて感じるとともに、将来への憧れがより一層強まり、今後の学修への意欲が高まりました。



Press Release

救命行動への不安低減に画期的な解決策をもたらす、トレーニングツール「ilis (アイリス)」にグッドデザイン賞



昭和医科大学メディカルデザイン研究所がデザインしたMixed Reality (MR) 技術とシミュレータを融合した一次救命処置 (BLS) トレーニングツール「ilis (アイリス)」が、2025年度グッドデザイン賞を受賞した。本ツールは、公共の場で突然倒れた人への救命行動を誰もが実践できる社会の実現を目指し、臨場感ある学習環境を提供するものである。従来の人形を用いたBLSトレーニングでは、実際の現場での不安や緊張に対応しづらい課題があったが、ilisはHMDを通じて傷病者の3DCGや駅構内などの環境、周囲の人声や雑音を再現し、トレーニング者の声に応じたフィードバックも可能とした。これにより、緊張感と真剣度が高まり、実践性の向上が確認されている。さらに、ハードウェアやOSの進化に柔軟に対応できるソフトウェア開発体制を整え、継続的なアップデートを可能にしている点も特徴である。現在は駅構内を想定したCGを開発しているが、要望に応じた環境設定や多言語対応も可能であり、医療機関や学校、消防庁などへの導入を計画している。本ツールはJSPS科研費の助成を受け、日本医学教育学会でも評価されており、グッドデザイン賞審査委員からは、従来困難であつ

た訓練者の自信醸成や不安低減に対する画期的な解決策として高く評価された。



一次救命処置トレーニングツール ilis (アイリス)

リリース時タイトル／【昭和医科大学メディカルデザイン研究所】一次救命処置トレーニングツール「ilis(アイリス)」が2025年度グッドデザイン賞を受賞しました!!

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学メディカルデザイン研究所 E-mail: imd-start@med.showa-u.ac.jp

「百敷や古き軒端のしのぶにも」と百人一首に詠まれたシダ植物“軒忍”の新種を発見、「タジマノキシノブ」と命名



タジマノキシノブの自生地

リリース時タイトル／昭和医科大学らの共同研究チームが、百人一首にも詠まれるシダ植物の新種を兵庫県で発見「タジマノキシノブ」と命名

掲載誌／Acta Phytotaxonomica et Geobotanica

論文名／*Lepisorus tajimaensis* sp. nov. (Polypodiaceae), a New Allohexaploid Species in the *Lepisorus thunbergianus* Polyploid Species Complex.

著者／Tao Fujiwara, Michiyuki Maruoka, Taketoshi Oka, Katsuhiro Yoneoka, Eri Ogiso-Tanaka, Atsushi Ebihara, Noriaki Murakami and Yasuyuki Watano

掲載日／2025年11月14日

DOI／10.18942/apg.202514

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学 富士山麓自然・生物研究所 講師 藤原 泰央 TEL: 0555-24-1186 E-mail: tfujiw@cas.showa-u.ac.jp

昭和医科大学では最新の研究結果等を外部（マスメディア）に発信しています。

ここでは、プレスリリースとして発信した記事を紹介します。

※掲載内容はリリース時の内容となります。なお、2025年12月号から誌面では省略版の掲載に変更しており、全文はQRコードからご案内しているWEBページにてご覧いただけます。

乳がん治療研究でプレーン・ランゲージ・サマリー公開 専門知識を持たない人々にもわかりやすい情報提供を



昭和医科大学の酒井瞳准教授と鶴谷純司教授らの研究チームは、乳がん治療薬トラスツズマブ デルクステカンによる吐き気・嘔吐の予防に関する臨床試験結果を、専門知識を持たない人にも理解しやすい形でまとめたプレーン・ランゲージ・サマリー (PLS) を作成し、2025年10月24日付で国際誌『Future Oncology』に掲載した。PLSは、患者や家族、一般の人々に正確で最新の医学情報をわかりやすく届けるための取り組みであり、近年英語での作成が増加しているが、日本語版の公開はまだ少ない。本PLSは、トラスツズマブ デルクステカン治療を受ける乳がん患者を対象とした第2相試験 (ERICA試験／WJOG14320B)に基づくもので、試験結果は2024年9月に欧州臨床腫瘍学会で報告され、『Annals of Oncology』にも掲載された。試験では、標準的な吐き気止めに加え、オランザピン 5mgを6日間内服することで、吐き気・嘔吐が軽減されることが示された。また、患者が長期間続く吐き気を経験している実態を明らかにし、オランザピンがその症状に有効である可能性を示した。今後も、専門家向け論文に加え、一般向けに理解しやすい情報提供を進めることが重要である。

リリース時タイトル／【昭和医科大学】臨床試験の結果をわかりやすく乳がん治療研究で日本語プレーン・ランゲージ・サマリーを公開

掲載誌／Future Oncology

論文名／Olanzapine for nausea and vomiting in people with breast cancer treated with trastuzumab deruxtecan: plain language summary of the ERICA study (トラスツズマブ デルクステカン治療を受けた乳がん患者さんの吐き気および嘔吐に対するオランザピンの投与: 平易な言葉によるERICA試験の要約)

著者／Hitomi Sakai, Junji Tsurutani, Yukinori Ozaki, Hiroshi Ishiguro, Kazuki Nozawa, Takashi Yamanaka, Kenjiro Aogi, Koji Matsumoto, Tsutomu Iwasa, M. Tokiwa, Mariko Tsuneizumi, Yasuo Miyoshi, Chiyo Kitazawa, Mitsugu Yamamoto, Yuko Takano, Chiyo. K. Imamura, Yasutaka Chiba, Daisuke Takiguchi, Takayuki Ezumi, Toshimi Takano

掲載日／2025年10月24日

DOI／10.1080/14796694.2025.2566329

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学先端がん治療研究所 所長 鶴谷純司 TEL: 03-3784-8145 E-mail: tsurutaj@med.showa-u.ac.jp

認知症による時間感覚の変化を、脳血流解析が予測 患者の早期発見や生活支援への応用を期待



昭和医科大学藤が丘病院脳神経内科の二村明徳講師らの研究グループは、認知症患者における時間感覚の変化と脳血流との関連を明らかにした。本研究は、英國神経科学誌『Brain Communications』に2025年10月29日付で掲載された。対象は健常者10名、軽度認知障害 (MCI) 10名、アルツハイマー型認知症 (AD) 37名であり、「昨日」「明日」などの語を含む短文を読み、それが現在からどれほど離れているかを9段階で回答させた。その結果、回答パターンは三つのクラスターに分類された。クラスターIは時間を正確に区別できる群でND全員、MCIの半数、ADの約2割が該当した。クラスターIIは過去・現在・未来を大まかに区別する群でMCIの3割、ADの3割が該当し、クラスターIIIは時間の区別ができない群でMCIの2割、ADの半数以上が該当した。脳血流画像解析では、脳梁周囲領域の血流からクラスター分類を最大75%の精度で予測できた。この領域には帯状回後部や楔前部が含まれ、時間見当識と関連することが示唆された。本研究は、認知症で「日時が分からなくなる」だけでなく、

過去・現在・未来の感覚自体が曖昧になることを科学的に裏付け、脳血流との関連を示したものであり、認知症の早期発見や生活支援への応用が期待される。

リリース時タイトル／【昭和医科大学】認知症になると「昨日」や「明日」があいまいに? 一時間感覚の変化と脳の血流の関係を解明

掲載誌／Brain Communications

論文名／The precuneus and posterior cingulate gyrus support temporal orientation in Alzheimer's disease.(アルツハイマー病における時間的認識を支える楔前部や帯状回後部)

著者／Akinori Futamura, Ryuta Kinno, Yuki Hanazuka, Ryuta Ochi, Akira Midorikawa, Shigeru Kitazawa, Kenjiro Ono, Mitsuru Kawamura.

掲載日／2025年10月29日

DOI／10.1093/braincomms/fcaf424

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学藤が丘病院 脳神経内科 講師 二村明徳 TEL: 045-971-1151 E-mail: eiju28af@med.showa-u.ac.jp

News & Topics

2025.10.3

至誠一貫を体現する医師へ白衣を纏い成長を誓う132名

10月3日、上條記念館で令和7年度医学部白衣授与式を執り行った。

同式は、臨床実習に臨むにあたり、白衣を授与して医療人を目指す者としての自覚を促し、心構えを新たにすることを目的に毎年実施している。

小風暁医学部長は告辞で古代ローマの哲学者セネガの言葉を引用し、「『幸運とは、準備と機会とが出会ったときに生まれるものである』と述べています。診療に参加する日々の中には知識を深め、技術を高め、医療人としてふさわしい態度を養う機会がたくさんあると思います。しかし、機会に恵まれるだけではなく、しっかりと準備をして機会を逃さないようにしてほしいと思います。皆さんにとっての幸運は医療人としての成長かと思いますが、それは、将来担当する患者さんの安らぎ、癒しと強く結びついていることを忘れないでください。皆さんが臨床実習に真摯に取り組み、至誠一貫を体現できる医師へと成長されることを確信しております」と述べた。

その後、4年生132名一人ひとりに教育職員から白衣が授与された。学生たちは真新しい白衣に袖を通し、これから始まる臨床実習への決意を新たにした。

列席者からの祝辞では、小口勝司理事長をはじめ上條由美学



閉式後の様子

長、城所扶美子統括看護部長から激励の言葉があった。坂下暁子横浜市北部病院長からは、「これからは患者さんと向き合い、血と肉になるような経験を積んでいってほしいと思います。また、患者さんの声に耳を傾けて、不安に寄り添うことを忘れずに進んでいってほしいと思います。失敗することを恐れずに、指導医や仲間と協力しながら一步一歩確実に力を蓄えていってほしいと思います。皆さまの医師としてのこれから輝かしい未来に心からエールを送ります」との祝辞が寄せられた。

続いて「先輩からの言葉」と題して臨床研修医代表の渡邊麻友さんから患者さんとの関わり方など、臨床実習での心得などについて講話があり、学生たちは熱心に耳を傾けていた。

最後に代表者による昭和医科大学宣言を行い、医療人としての誓いを新たにし、閉式となった。

これから卒業まで、学生は本学附属病院および関連実習施設における実習課程で研鑽を重ねていく。

2025.9.21

地震災害に備え合同防災訓練を実施 大学と病院の連携強化を図る

9月21日、旗の台キャンパスにおいて昭和医科大学病院との合同防災訓練を実施した。

今回の訓練では、大地震の発生により学生や職員、来訪者等が負傷した状況を想定し、災害対策本部と旗の台校舎に設置した救護所における救護活動や大学病院との連携について具体的な手順を確認した。

災害対策本部・救護所の要員役や火元責任者役、負傷者役として、教育職員23名、事務職員42名、学生5名が参加した。

大地震によって火災や建物の倒壊が発生し、多数の負傷者が出了場合、昭和医科大学病院には多くの患者さんが集中することが想定される。

そのため、旗の台校舎救護所で迅速かつ効果的な救護活動を行い、医療機関の負担軽減を図れるよう、最初に岡島由佳教授（保健管理センター）による初動対応・トリアージに関する説明が行われた。

その後、救護所における「軽症者に対する応急手当」や大学病院と連携した「中等症以上の負傷者搬送」等、処置や搬送等



担架による搬送方法確認

の一連の流れや方法、それぞれの役割を確認した。

このほか、災害対策本部では、本部運営・避難誘導対応班、初期消火・施設管理対応班、学生班の各班が連携して活動し、職員・学生・物的被害状況に関する情報収集の手順の確認やキャンパス内の火災発生時における初期消火対応、学生の負傷者が発生した際の避難誘導について確認した。

また、旗の台校舎救護所の要員は、キャンパス内の救護活動が収束したのち、昭和医科大学病院における救護活動に参加することも重要な役目として担っているため、同病院に参集してから業務指示を受けるまでの流れを確認した。

*旗の台校舎救護所では、軽症者に対する応急手当として、ファーストエイド（ガーゼや包帯による傷口の被覆、直接圧迫による止血、副木や三角巾による骨折の処置など）を行うとともに、一次救命処置（心臓マッサージ、AEDの使用など）を行うことを想定している。

2025.10.21

尊いご献体に感謝を捧げる 令和7年度解剖慰靈祭を挙行

10月21日、令和7年度解剖慰靈祭を上條記念館にてしめやかに執り行った。

解剖慰靈祭は医療の進歩のため、ご献体された故人の遺徳を偲び感謝する式典である。

令和6年4月1日から令和7年3月31日までにご献体いただいた122柱（献体解剖43柱、病理解剖79柱）の靈位が祀られ、参列者からご尊靈に対し、黙祷が捧げられた。その後、参列者全員が祭壇に献花を行い、ご冥福をお祈りした。

式典では、大塚成人教授（医学部解剖学講座肉眼解剖学部門）が「献体者の崇高なご意思と善意により、今日の医学・歯学教育は支えられています。私たち医療従事者はその尊い志を決して忘ることなく、学生は将来、医師・歯科医師・薬剤師・看護師、理学・作業療法士として、命と向き合い、医療の発展と人々の健康に生涯をかけて貢献していくことをお誓い申し上げます」と祭文

を捧げた。

続いて、医学部と歯学部の学生代表が弔辞を述べた。医学部の学生は「尊いご献体に深く感謝し、命と向き合う医療者としての責任を胸に刻みます」と誓いを述べ、歯学部の学生は、「命の尊さとご献体の意義を胸に、全身の健康を支える歯科医師を志します」と誓った。

次に、上條由美学長が「献体者の崇高なご意思とご遺族のご理解に深く感謝申し上げます。私たちはその善意を糧に、医学教育と研究に尽力し、命と向き合う医療人の育成に努めてまいります」と挨拶を述べた。

最後に、参列者による献花が行われ、閉式となった。



献花の様子

保健医療学部 横浜キャンパス 地域・一般

2025.10.25

小学生が医療のお仕事を体験！ 横浜市と連携して体験プログラムを開催

10月25日、横浜市医療局地域医療課企画の「小学生医療体験プログラム2025」を横浜キャンパスにて開催し、10組20名が参加した。

小学生医療体験プログラム2025は、医師や看護師をはじめとした医療機関等で働く専門職の仕事を体験できる内容となっており、市内の医療機関等と連携して開催された。

昭和医科大学保健医療学部では、「看護やリハビリのお仕事を体験してみよう！」をテーマに、看護師・理学療法士・作業療法士の仕事の一部を体験してもらった。

はじめに、安部聰子教授（保健医療学部看護学科）が開会の挨拶をした後、各学科・専攻の学生がそれぞれの職種紹介と体験する内容について説明を行った。



記念撮影

その後、看護師・理学療法士・作業療法士のブースに分かれて、「点滴の滴下調節」「ジャンプ力向上チャレンジ」「手の装具作成及び使用体験」等の医療体験が行われた。

参加者からは「普通の生活ではできない特別な体験ができてよかったです」「もっともっと、看護師・理学療法士・作業療法士の仕事を知りたくなった」といった好評の声が寄せられた。

全体を通して小学生が熱心に体験を行っている様子が見られ、実際に医療現場で行われている業務や物品に触れて、各職種の役割や業務内容について理解を深めていた。



表彰式: 表彰状授与

式典・行事 旗の台キャンバス

2025.11.11

永年の勤務を讃え239名を表彰

11月11日、上條記念館にて令和7年度永年勤続者表彰式を執り行った。

勤続35年42名、勤続25年56名、勤続15年141名（計239名）に表彰状と記念品が贈呈された。式典後の懇親会では、交流を深める様子が見られた。

※永年勤続者一覧はP27Database欄で紹介

秋期公開講座を各施設で開講

秋期公開講座が10月から12月にかけて各施設で開講。各講演終了後には、参加者から多数の質問があり、講師は一つひとつ丁寧に答えていた。次回の昭和医科大学公開講座は春期の開催を予定している。

歯科病院

開催日	10月11日	テーマ	暮らしと健康～お口の健康～
講演内容	「さまざまな口腔粘膜疾患」 大場 誠悟(顎頭面口腔外科 診療科長) 「矯正歯科と健康寿命～いま、なぜ歯並びが大切なのか～」 中納 治久(矯正歯科 診療科長)		
	「今からできる！お口と身体の健康習慣」 渡邊 友梨(歯科衛生室 歯科衛生士)		



江東豊洲病院

開催日	10月13日	テーマ	暮らしと健康『今日からできる！健康対策～寝たきりにならないための食事療法～』
講演内容	「自宅でできる褥瘡治療～それは予防～」 永田 茂樹(皮膚科 診療科長) 「食事で防ぐフレイル・サルコベニア～健康寿命を延ばす栄養法～」 宮永 直樹(栄養科 管理栄養士)		

横浜キャンパス

開催日	10月25日	テーマ	暮らしと健康
講演内容	「いびき」や「日中の眠気」が気になる方へ～睡眠の悩みと上手に向き合う～ 安達 太郎(保健医療学部看護学科 教授／東病院 睡眠医療センター長)		

富士吉田キャンパス

開催日	11月1日	テーマ	暮らしと健康
講演内容	「人生がハッピーになる大人のオシッコ学」 小川 良雄(富士吉田教育部長) 「細長い町」からの復活～太宰治『富嶽百景』を読む～ 田中 周一(富士吉田教育部 特任教授)		

旗の台キャンパス

開催日	11月8日	テーマ	暮らしと健康『心と体のサプリメント』
講演内容	「食事とサプリメントについて(薬剤学的観点から)」 和田 紀子(薬学部病院薬剤学講座病院薬剤学部門 講師) 「保健機能食品について」 水野 亜美(昭和医科大学病院栄養科 管理栄養士) 「こころのサプリメント：メンタルヘルスリテラシーを正しく理解する」 前田 愛(横浜市北部病院 看護部 精神看護専門看護師)		

冬の稼働開始に向けボイラー設備の安全を祈願

11月に旗の台キャンパス、横浜キャンパスにて令和7年度ボイラー祭を挙行した。寒さが厳しくなる冬に向けて、本学では建物内の空調設備を暖房運転に切り替える。その暖房運転の要となるのがボイラー設備である。ボイラーの本格的な稼働にあたり、設備の安全運転と職員の健康を祈願した。

※ボイラー祭とは、ボイラー設備がある事業所で行う安全祈願の祭事である。
江戸時代、毎年11月8日に行われていた火の神様に感謝する「ふいご祭り」が由来とされている。



令和7年度武重優秀クラブ賞表彰式を挙行

10月28日、上條記念館にて令和7年度武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞表彰式を挙行した。

同賞は学生の課外活動において優秀な成績を収めたクラブを表彰するもので、今回で22回目を迎えた。

最優秀賞となる武重優秀クラブ賞は、「バレーボール部」が受賞した。

バレーボール部は春季医科学生体育大会で準優勝、関東医歯薬大学リーグ戦で15年振りの全勝優勝を果たした。

また、個人としても、ベストセッター賞、ベストミドル賞など多

くの成績を残したことから、同賞に選ばれた。

表彰式では、上條由美学長、小口勝司理事長から激励の言葉や、応援指導部によるエールが送られた。

学生たちはその期待と誇りを胸に、今後も日々の活動に励んでいく。

各クラブ賞の受賞団体は以下のとおりである。



武重優秀クラブ賞:バレーボール部

武重優秀クラブ賞

バレーボール部

優秀クラブ賞

学長賞:バスケットボール部 齒学部長賞:歯学部スキーチーム
医学部長賞:医学部準硬式野球部 薬学部長賞:剣道部

保健医療学部長賞:医学部弓道部

学生部長賞:北岳診療部

2025年9月11日の豪雨被害もふまえ旗の台キャンパスで避難訓練

11月5日、旗の台キャンパスにおいて避難訓練を実施した。

この訓練は、災害や緊急事態に備え、迅速かつ的確に行動するための重要な取り組みである。

当日は、東京湾北部を震源として、首都直下型の震度6強の地震が発生した場合を想定した避難訓練を行った。

職員・学生は、館内放送の避難指示に従って屋外への避難を実施し、地震発生に伴い設置された「災害対策本部」に被害状況を報告する等、災害発生時の手順や適切な行動についての確認を行った。

避難完了後には、2025年9月11日のゲリラ豪雨被害をふまえた「昭和医科大学における水害対策」の説明会を開催した他、職員・学生に対して非常時用備蓄品を配布した。



災害対策本部への状況報告

富士吉田のオープンキャンパスで402名が全寮制の雰囲気を体験

11月29日、富士吉田キャンパスにてオープンキャンパスを開催した。

当日は天候にも恵まれ、包括連携協定校の生徒・保護者69名を含めた184組402名が参加した。

オープンキャンパスでは、1年次の教育や学生生活の紹介、本学の入試制度の説明を行ったほか、各学部の教育職員による個別相談や在学生とのフリートークなどが行われた。

また、本学の特色である『富士吉田での全寮制教育』を体験していただくために、学生寮や馬場、自然教育園といった施設を見

学するキャンパスツアーや加え、食堂での昼食体験も併せて実施された。

参加した皆さんからは

「1年次で過ごすキャンパスの雰囲気を感じることができた」「快適に勉強に励む環境が整っており、ここで学びたいと心から思った」「以前は寮生活に不安を持っていたが、楽しそうという気持ちの方が大きくなつた」といった好評の声が寄せられた。



食堂での昼食体験

秋期公開講座を各施設で開講

秋期公開講座が10月から12月にかけて各施設で開講。各講演終了後には、参加者から多数の質問があり、講師は一つひとつ丁寧に答えていた。次回の昭和医科大学公開講座は春期の開催を予定している。

歯科病院

開催日	10月11日	テーマ	暮らしと健康～お口の健康～
講演内容	「さまざまな口腔粘膜疾患」 大場 誠悟(顎頭面口腔外科 診療科長) 「矯正歯科と健康寿命～いま、なぜ歯並びが大切なのか～」 中納 治久(矯正歯科 診療科長)		
	「今からできる！お口と身体の健康習慣」 渡邊 友梨(歯科衛生室 歯科衛生士)		

江東豊洲病院

開催日	10月13日	テーマ	暮らしと健康『今日からできる！健康対策～寝たきりにならないための食事療法～』
講演内容	「自宅でできる褥瘡治療～それは予防～」 永田 茂樹(皮膚科 診療科長) 「食事で防ぐフレイル・サルコベニア～健康寿命を延ばす栄養法～」 宮永 直樹(栄養科 管理栄養士)		

横浜キャンパス

開催日	10月25日	テーマ	暮らしと健康
講演内容	「いびき」や「日中の眠気」が気になる方へ～睡眠の悩みと上手に向き合う～ 安達 太郎(保健医療学部看護学科 教授／東病院 睡眠医療センター長)		

富士吉田キャンパス

開催日	11月1日	テーマ	暮らしと健康
講演内容	「人生がハッピーになる大人のオシッコ学」 小川 良雄(富士吉田教育部長) 「細長い町」からの復活～太宰治『富嶽百景』を読む～ 田中 周一(富士吉田教育部 特任教授)		

旗の台キャンパス

開催日	11月8日	テーマ	暮らしと健康『心と体のサプリメント』
講演内容	「食事とサプリメントについて(薬剤学的観点から)」 和田 紀子(薬学部病院薬剤学講座病院薬剤学部門 講師) 「保健機能食品について」 水野 亜美(昭和医科大学病院栄養科 管理栄養士) 「こころのサプリメント：メンタルヘルスリテラシーを正しく理解する」 前田 愛(横浜市北部病院 看護部 精神看護専門看護師)		

冬の稼働開始に向けボイラー設備の安全を祈願

11月に旗の台キャンパス、横浜キャンパスにて令和7年度ボイラー祭を挙行した。寒さが厳しくなる冬に向けて、本学では建物内の空調設備を暖房運転に切り替える。その暖房運転の要となるのがボイラー設備である。ボイラーの本格的な稼働にあたり、設備の安全運転と職員の健康を祈願した。

※ボイラー祭とは、ボイラー設備がある事業所で行う安全祈願の祭事である。
江戸時代、毎年11月8日に行われていた火の神様に感謝する「ふいご祭り」が由来とされている。



ISOTT2025にて、 水素吸入の脳への影響を探る研究が受賞

守屋正道助教（医学部生理学講座生体制御学部門）が、2025 annual meeting of the International Society on Oxygen Transport to Tissue (ISOTT2025) (8月24～28日：ギリシャ・テッサロニキ) で、全一般演題の中から1名に授与される「The Britton Chance Award」を受賞した。守屋助教は演題名『Time-domain NIRS study of cerebral oxygenation dynamics induced by hydrogen inhalation』を発表し、水素吸入が脳循環動態に及ぼす影響や脳・自律神経系への調節作用の可能性を明らかにしたことが高く評価され、同賞に選定された。

【守屋正道助教のコメント】

この度は「The Britton Chance Award」を受賞することができ、大変光栄に存じます。ご指導・ご助力を賜りました関係者の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

本研究では、健常成人を対象に、時間分解式近赤外分光法(TD-NIRS)を用いて水素吸入が脳循環動態に及ぼす影響を評価しました。特に、右半球優位の酸素化変化や加齢に伴う応答性の違いといった生理的変動に着目し、水素吸入による脳・自律神経系への調節作用の可能性を明らかにしました。これらの知見は、水素の中枢性作用の解明に加え、臨床への応用にも寄与するも



左から、Ilias Tachtsidis教授(ISOTT2025大会長)、
守屋正道助教

のと考えております。

由緒ある本学会で「The Britton Chance Award」を賜われたことは、今後の研究活動への大きな励みとなります。引き続き、生理学的指標を慎重に解析しながら、臨床と基礎をつなぐランスレーショナルリサーチの実現を目指し精進してまいりたいと存じます。

関連リンク / International Society on Oxygen Transport to Tissue (ISOTT) <https://isott.org/>

唾液腺再生医療の研究で 歯科基礎医学会ライオン学術賞を受賞

田中準一准教授（歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門）が、歯科基礎医学会が設ける第25回（2025年度）歯科基礎医学会ライオン学術賞に選定され、第67回歯科基礎医学会学術大会（9月5日～7日：北九州国際会議場）にて受賞講演および授賞式が行われた。同賞は歯科基礎医学分野において、国際レベルの卓越した研究成果を挙げ、歯科医学の発展・進歩に多大に寄与した学会員の功績を称えるものである。毎年2名までの歯科基礎医学研究者が選定され、今年度は田中准教授1名が受賞した。

【田中準一准教授のコメント】

この度は大変栄誉ある賞を賜り、光栄に存じます。本受賞内容は「幹細胞を基軸とした唾液腺再生医療の開発」というもので、大学院時代から継続して行ってきた研究内容です。幹細胞から唾液腺を作出するというチャレンジングな研究でありましたが、美島健二教授（歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門）のご指導ならびに学内外の多くの先生方のご助言や共同研究により、このような評価をいただけるような研究に発展したことを大変嬉しく



左から、大島勇人教授（歯科基礎医学会理事長）、田中准一准教授、栗田啓吾（ライオン株式会社）

思います。今回の受賞にあたって多くの先生方からお祝いの言葉とともに今後の発展について激励の言葉をいただきました。

幹細胞を用いた唾液腺再生医療の臨床応用には多くの課題の解決が必要ではありますが、今回の受賞を励みに、今後とも研究に精進し社会貢献できればと考えております。

関連リンク / 歯科基礎医学会 <https://www.jaoe.jp/> 第67回歯科基礎医学会学術集会 <https://orbit-cs.net/jaoe67/index.html>

読売テレビアナウンスセンター主催 学生アナウンスコンテスト特別賞

コンテスト名 第3回ytv学生アナウンスコンテスト

受賞者 中川研人さん（薬学部3年）

日程・場所 2025年6月8日：大阪・読売テレビ本社



左から、中川研人さん、小林靖奈教授

日本社会薬学会 学部学生優秀発表賞

演題名 「市販薬を過量服用する者の期待と価値観」

受賞者 森梨々華さん（薬学部6年）

日程・場所 2025年9月6日～7日：和歌山県立医科大学薬学部



左から、岸本桂子教授、森梨々華さん

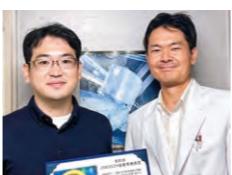
日本宇宙生物科学会 最優秀発表賞

「過重力が破骨細胞の機能および細胞骨格に及ぼす影響—重力センサーの解説を目指して—」

演題名 (Effects of hypergravity on osteoclast function and cytoskeleton - To elucidate gravity sensors -)

受賞者 高橋夏大さん（歯学研究科医科歯科連携診療歯科学分野4年）

日程・場所 2025年9月12日～14日：帝京大学



左から、高橋夏大さん、茶谷昌宏准教授

日本病院総合診療医学会学術総会 トラベルアワード受賞

「教育と医療の間で：院内学級教師の介入効果を考える」和田 功

演題名 「見逃された卵巣囊腫のゆくえ」大口 裕人
「患児本人の検索が診断の手がかりになった手指腫脹の男子例」椎葉 未怜

受賞者 和田功さん（医学部6年）、大口裕人さん（医学部5年）、椎葉未怜さん（医学部5年）

日程・場所 2025年9月27日～28日：アクリエひめじ



左から、椎葉未怜さん、和田功さん、
大口裕人さん

各キャンパスでイルミネーション点灯式

11月21日、旗の台キャンパスにてイルミネーション点灯式を執り行った。

学生代表3名がカウントダウンに合わせて点灯スイッチを押すと、中庭を包み込むようにイルミネーションが一斉に輝き、集まった人々から歓声が上がった。

富士吉田キャンパスは11月21日、横浜キャンパスは12月3日にそれぞれ点灯式を行った。

今年も趣向を凝らしたイルミネーションが用意されており、2026年2月（横浜キャンパスは2026年1月）まで楽しむことができる。



旗の台キャンパス

ADHD薬物治療の個体差に関する論文が「NPPR Article Award 2025」を受賞

永井努講師（薬学部病院薬剤学講座病院薬剤学部門）が「NPPR Article Award 2025」を受賞した。NPPR Article Award 2025は、日本神経精神薬理学会と日本臨床精神神経薬理学会の合同機関誌である「Neuropsychopharmacology Reports (NPPR)」に2022年1月1日から2024年12月31日までに掲載された論文（総説を除く）のうち、アルティメトリック値やMendeleyスコア等を考慮した高い被引用数を達成した論文を表彰するものである（過去に同賞を受賞した論文は除外）。永井講師、栗原准教授らによる『Identification of factors associated with the efficacy of atomoxetine in adult attention-deficit/hyperactivity disorder』の投稿論文が高く評価され同賞に選定された。

【永井努講師のコメント】

このたびは、NPPR Article Award 2025を受賞いたしましたことを大変光栄に存じます。

本研究では、成人の注意欠如・多動症（ADHD）の標準治療薬の1つであるアトモキセチンの長期使用における有効性の個体差が大きいことに着目し、抽出した複数の関連因子により、治療薬選択の個別化に応用できる可能性をNPPR誌にて報告いたしました。

本研究結果が後続のADHD治療に関する研究の進展と、ADHD治療の向上に少しでも貢献できれば幸いです。引き続き、研究成果を通して、ADHDをはじめとした精神疾患の薬物治療の向上に努めてまいりたいと思います。

本研究にあたり、研究の着想から実施まで直接ご指導していただきました栗原竜也准教授（薬学部病院薬剤学講座臨床教育部門）をはじめ、本研究に携わった全て先生にこの場をお借りして



左から、永井努講師、栗原竜也准教授

心より厚く御礼申し上げます。

今後も今回の受賞を励みにより一層臨床業務、研究活動に努力してまいります。

論文名 / Identification of factors associated with the efficacy of atomoxetine in adult attention-deficit/hyperactivity disorder

掲載誌 / Neuropsychopharmacology Reports: 2022, Vol 42, Issue 3, p. 249-255.

著者 / Tsutomu Nagai, Tatsuya Kurihara, Hiroaki Koya, Yukako Nakano, Satoru Sugisawa, Takehiko Sambe, Keiko Kishimoto, Mari Kogo, Haruhisa Ota, Akira Iwanami, Naoki Uchida

DOI / 10.1002/npr.212253

関連リンク / NPPR Article and Review Awards https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/2574173x/homepage/nppr_article_and_review_awards

認知症予防学会にて浦上賞受賞

ハンドケアによる治療効果の研究が評価

佐々木晶子兼任講師（医学部薬理学講座医科薬理学部門）が、第14回日本認知症予防学会学術集会（9月12日～14日：東京都、都市センターホテル）において、演題名「非薬物療法ハンドケアの軽度認知障害（MCI）の改善効果」で、優秀演題の浦上賞を受賞した。日本認知症予防学会は、認知症予防に関する科学的研究の発展とその成果を社会に役立てることを目的としている。

【佐々木晶子兼任講師のコメント】

このたび、日本認知症予防学会において、優秀演題の浦上賞を賜り、大変光栄に存じます。

私はこれまでハンドケアがさまざまな疾患の改善や予防に役立つことを科学的に証明してまいりました。今回発表したデータは長期間にわたる認知症施設での臨床試験と、細胞培養を用いた基礎研究を融合させた結果です。

この研究を進めるにあたり、小口達敬教授（医学部薬理学講座医科薬理学部門）をはじめ、認知症施設職員の皆様、ハンドケア



左から、小口達敬教授、佐々木晶子兼任講師

セラピスト、多くの先生方のご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今回の受賞を機に、ハンドケアがさまざまな診療科で臨床活用できる可能性を実感いたしました。今後は患者さんやご家族の皆様、さらにハンドケア施術者の育成にも力を注いで参りたいと思います。

関連リンク / 第14回日本認知症予防学会学術集会 <https://jsdp2025.umin.jp/>

オンライン看護相談実践の演題 日本慢性看護学会学術集会にて受賞

富田真佐子教授（保健医療学部看護学科）が、第19回日本慢性看護学会学術集会（9月6日・7日：いわて県民情報センター アイーナ）において、演題名「炎症性腸疾患患者へのオンライン看護相談によるセルフケア支援の実践と課題」で、優秀演題賞を受賞した。日本慢性看護学会は、慢性的な心身の不調と共に生きる人々と社会に貢献するために慢性看護学の研究と実践知の創出、システムに関する提言を目的としている。

【富田真佐子教授のコメント】

この度、日本慢性看護学会において、優秀演題賞を賜り、大変光栄に存じます。

私はこれまで潰瘍性大腸炎とクロhn病に代表される炎症性腸疾患患者への看護実践と研究に取り組んできました。QOLや不確かさの概念を視点とした探索的研究、QOL尺度の開発、セルフケア支援アプリの開発などを行ってきました。看護は実践の学問です。研究結果を実践につなげたいという思いから、コロナ禍で急速に発展したICT技術を活用したオンライン看護相談を着想しました。オンラインでセルフケアの状況を共にアセスメントし、スライ



富田真佐子教授

ドを用いて日常生活で役立つ知識の提供や、悩みや不安に対する傾聴を行ったところ、対象者から高い評価を得ることができ、新しい看護の可能性を実感しました。今回の受賞を励みに、今後は患者さんご本人だけではなく、その家族や、日常的に患者さんと接する機会が少ない看護師への支援にも広げていきたいと考えています。

関連リンク / 第19回日本慢性看護学会学術集会 <https://mansei19morioka.net/>

乳がん領域のQOL/PRO分野の研究活動が評価され優秀論文賞受賞

奥山裕美兼任講師（先端がん治療研究所）が第26回Breast Cancer優秀論文賞を受賞し、第33回日本乳癌学会学術総会（7月10日～12日：京王プラザホテル）において、受賞記念講演を行った。日本乳癌学会学術総会は乳癌に関する基礎的ならびに臨床的研究を推進し、社会に貢献することを目的としており、Breast Cancer誌は同学会のオフィシャルジャーナルである。「Breast Cancer優秀論文賞」は、Breast Cancer誌に投稿された論文の中で、特に優れた研究論文に対して贈られるものである。



左から、奥山裕美兼任講師、石田孝宣大会長（一般社団法人 日本乳癌学会 理事長）

【奥山裕美兼任講師のコメント】

この度は、第26回Breast Cancer優秀論文賞を頂戴し、大変光栄に存じます。私は乳癌領域におけるQOL/PRO分野の研究活動に長年取り組んでまいりました。本研究の実施にあたり、ご指導いただきました先生方、貴重なご協力を頂きました患者の皆様に深く感謝いたします。今回、昭和医科大学からエビデンスを発信できたことを心より喜ぶとともに、本学の医学研究分野での益々の発展を祈念いたしております。

論文名 / A randomized trial of the impact of symptom monitoring using an electronic patient-reported outcome app on health-related quality of life in postmenopausal breast cancer patients receiving adjuvant endocrine therapy (乳癌術後ホルモン療法を開始する閉経後の患者を対象としたePROアプリ使用がQOLに与える影響を検討するランダム化試験)

掲載誌 / Breast Cancer 2024; Volume 31, pages 787-797

著者 / Hiromi Okuyama, Fuka Takada, Naruto Taira, Seigo Nakamura
DOI / 10.1007/s12282-024-01592-4

関連リンク / 第33回日本乳癌学会学術総会 <https://www.congre.co.jp/jbcs2025/index.html> Breast Cancer優秀論文賞 これまでの受賞者 https://www.jbcs.gr.jp/modules/education/index.php?content_id=1

2025.10.8~9

日本口腔筋機能療法学会学術大会で優秀発表賞を受賞

歯科衛生士の松田梢さん(歯科病院歯科衛生室・大学院保健医療学研究科)らが、第23回日本口腔筋機能療法(MFT)学会学術大会(10月8日~9日:有楽町朝日ホール)において、口演発表演題名「口腔筋機能療法(MFT)を実施した成人患者におけるトレーニング回数や期間に関連する要因解析」にて優秀発表賞を受賞した。日本口腔筋機能療法学会は、口腔筋機能療法(MFT)に関する資質の向上、関連医学の進歩および社会の福祉と国民の健康増進に寄与することを目指しており、今年度は「MFTの成功を目指して」をテーマに掲げ、開催された。

【共同研究者名】

松田梢(歯科病院歯科衛生室・大学院保健医療学研究科)

芳賀秀郷(歯学部歯科矯正学講座准教授)

永里咲恵(歯科病院歯科衛生室・大学院保健医療学研究科)

梅原郷人(歯学部歯科矯正学講座非常勤医師)

北はるな(歯学部歯科矯正学講座助教)



左から、松田梢さん、石野由美子大会長(二子玉川ガーデン矯正歯科/昭和医科大学歯科病院口腔機能リハビリテーション科)

城生麻里(保健医療学部保健医療学教育学講師/歯科病院歯科衛生室)

佐藤祥子(藤が丘病院歯科室)

佐藤香織(歯科病院歯科衛生室)

中納治久(歯学部歯科矯正学講座教授)

木村有子(歯科病院歯科衛生室・大学院保健医療学研究科講師)

【松田梢さんのコメント】

この度は、このような栄誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。本研究は、口腔筋機能療法(以下、MFT)を実施した成人患者におけるトレーニング回数や期間に関連する要因の解析を行ったものになります。MFTの臨床的效果はすでに周知の事実ですが、その定量的評価や学術的検証は課題でもありました。今回の研究は日常臨床からのクリニカルクエスチョンをテーマに掲げ、分析を進めてきました。

今回の発表にあたり、ご指導を賜りました芳賀秀郷准教授、木村有子課長はじめ、多くの先生方・関係者の皆さんに心より御

礼申し上げます。現在も本研究テーマを継続しており、様々な課題を解決した上で、歯科衛生士の立場から歯科臨床への還元を目指しております。引き続き研究に精進し、大学の研究促進と社会への貢献に尽力する所存です。

改めて、日頃よりご指導、ご助力をいただいている統括研究推進センター(SURAC)の皆様、関係者の皆様および歯科衛生室の皆様に心より御礼申し上げます。

関連リンク / 日本口腔筋機能療法学会 <https://www.oralmyofunctional.info/>

2025.7.25

小学生向け薬学体験プログラムを実施

7月25日、肥田典子教授(薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門)が「板橋ジュニア・メディカルスクール」(アトリエ・パンライ -ITABASHI- : 東京都板橋区)にて、小学生を対象に薬学体験プログラムを実施した。

アトリエ・パンライは、三井住友フィナンシャルグループが運営する、「体験の資産」を残すお手伝いを通じて、こどもたちに今後の人生を豊かにするために欠かせない「好奇心という資本」を提供するために創設された場所である。三井住友銀行の板橋中台出張所跡地にて、週2回の体験プログラム、週1回のこども食堂を通じ、多様な体験機会・地域交流を実現している。

プログラムでは「薬はどうして水で飲むの? つぶしてもいいの?」という身近な疑問をテーマに、実験やクイズを通して楽しみながら学びを深めた。薬の正しい飲み方や体内での働きについて、実際に体験することで理解を深める貴重な機会となった。

お茶に鉄シロップを入れて色が変わる実験では、こどもたちから驚きの声が上がり、「なんで? どうして?」多くの質問が飛び

交い、興味の高さがうかがえた。

今後も本学は地域の皆様と連携し、こどもたちの医療・健康への関心を育む多様な教育・体験プログラムを展開していく。

【体験プログラム講師】

肥田典子教授(薬学部臨床研究開発学講座臨床研究開発学部門)

山崎太義講師(同)

三邊武彦教授(統括研究推進センター)



体験プログラムの様子

関連リンク / アトリエ・パンライ-ITABASHI- <https://www.smfg.co.jp/sustainability/atelier/>

2025.8.7~10

中国医師協会にシンポジストとして招聘 画像解析による腎臓病理診断を演題に

高木孝士教授(電子顕微鏡室)、川西邦夫教授(医学部解剖学講座顕微解剖学部門)、康徳東准教授(同)が、中国医師協会腎臓内科医師分会(8月7日~10日:中国・武漢・インターベンショナル武漢)の、「腎臓病理-慢性腎臓病の全段階管理の進展と展望」のセクションにて招聘シンポジストとして講演を行った。

高木教授は「Application of a Technique Obtaining STEM Images Using Tabletop SEM and TEM Section for Pathological Diagnosis.(卓上SEMとTEM切片を用いたSTEM画像取得技術の病理診断への応用)」、川西教授は「AI-Driven Segmentation of Glomerular Basement Membrane Lesions Using Single Slide Imaging in a Mouse Model of Alport Syndrome.(アルポート症候群モデルマウスにおける糸球体基底膜病変のAI画像解析 -シングルスレードイメージ法による高精度セグメンテーション)」、康准教授は「移植腎病理診断の洞察」という演題で講演を行い、それぞれ専門的見地から概要の説明を行った。



高木孝士教授

2025.9.6~10

欧州病理学会議およびKIP SYMPOSIUM2025 電子顕微鏡が変える腎病理学の未来を講演

高木孝士教授(電子顕微鏡室)が、第37回欧州病理学会議(European Congress of Pathology, ECP)(9月6日~10日:オーストリア、ウィーン・Austria Center Vienna, ACV)で招待講演を行った。ECPは病理学分野で最大規模の国際会議で、今回は世界102カ国から約5,700人が参加した。

高木教授はEM Working Group主催セッション「電子顕微鏡における定量的形態学」に登壇し、「Novel Techniques in Electron Microscopy for Diagnostic Pathology(診断病理学における新しい電子顕微鏡技術)」と題して、走査電子顕微鏡を中心とする4つの新規観察手法と、それらが臨床診断や研究に与

える波及効果について展望を示した。

また、KIPシンポジウム2025(9月11日: ウィーン医科大学・臨床病理学研究所)にて、「New techniques of electron microscopy in pathology with special reference to renal disease(腎疾患に焦点を当てた電子顕微鏡の新技術)」の講演を行い、電子顕微鏡の新たな解析技術を腎疾患に応用する実践例を提示し、腎病理学における今後の方向性を提案した。



講演の様子(第37回欧州病理学会議)

日本調剤

全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社(本社: 東京都千代田区丸の内、東証プライム市場上場)は、全国47都道府県で700以上の調剤薬局を展開している企業です。



あなたには眠りやすい角度がある。
「入眠角度」という新提案。



ベッドが動けば、寝起き変わる。

Active Sleep BED



www.paramount.co.jp

(03)3648-1171(代)

2025.11.28

ふるさと会総会を開催 地域の魅力を共有し親睦を深める

11月28日、昭和医科大学ふるさと会総会を上條記念館 富士桜で開催し、ふるさと会会員を中心に130名が参加した。

総会は、ふるさと会会长である上條由美学長の式辞に続き、小口勝司理事長の挨拶、ふるさと会副会長の馬場一美歯学部長の乾杯により、懇親会が和やかに始まった。

各活動地域の挨拶では、18地域の代表による「ふるさと紹介」が行われ、それぞれの地域ならではの魅力が紹介され、会場は大いに盛り上がった。さらに、山口ふるさと会によるパフォーマンスも披露され、会場の熱気は一層高まった。

このほか、各ふるさとを題材としたクイズ大会も実施され、多くの方々が参加し、大盛況のうちに終了した。

ふるさと会は、昭和医科大学の職員・学生をはじめ、同窓の



懇親会の様子

方々にも広く交流していく
ただく親睦の場です。皆
さまのゆかりのある「ふる
さと会」へ、ぜひお気軽に
ご入会ください。各活動
地域による懇親会は、順
次開催予定です。開催の際には職員・学生の皆さんにご案内いた
しますので、会員の方も、まだ会員でない方も、ぜひご参加くだ
さい。

入会を希望される方はこちらよりお申し込みください。
<http://www.postin-net.com/showa-u/furusato/>



2025.12.7

認定看護管理者教育課程 セカンドレベル修了式

12月7日、2025年度認定看護管理者教育課程セカンドレベルの修了式を上條記念館にて開催した。

今年度は52名が全課程を修了し、出席者42名に増田千鶴子看護キャリア開発・研究センター長から修了証が授与された。

増田センター長は挨拶で「研修で得た知識を現場で活かし、計画を実行し、優れた認定看護管理者として活躍されることを期待しております」と述べた。

研修生代表は挨拶で「講義で得た学びを業務改善に活かし、理想の看護管理者を目指して行動します」と述べ、決意を新たにした。



記念撮影



Database

令和7年度

科学研究費助成事業採択課題一覧

令和7年度の科学研究費助成事業の交付は全体で344件が採択され、総計で4億1,635万円が交付される。

各所属の採択件数・交付額は以下の通り。

■ 医学研究科：127件	1億5,255万円	■ 歯学研究科：98件	1億3,670万円	■ 薬学研究科：41件	4,160万円
■ 保健医療学研究科：35件	2,440万円	■ 富士吉田教育部：4件	580万円	■ 研究所等：39件	5,530万円

今号では、保健医療学研究科と富士吉田教育部、研究所・法人の一覧、そして6月以降採択分を掲載する。※所属・役職は令和7年5月1日付人事情報

■ 保健医療学研究科

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
教育学分野		教授	榎田 めぐみ	200,000	多職種と協働できる能力を育むための段階的な教育プログラムの構築と評価方法の確立
		准教授	田代 尚範	1,200,000	心血管疾患における呼吸サルコペニアの早期発見システムの開発と治療戦略の構築
		准教授	加茂野 有徳	300,000	脳卒中片麻痺者に対する長下肢装具を用いた立位・歩行リハによる身体的・心理的効果
		准教授	吉川 輝	500,000	運動によって脳損傷後の運動機能を回復させる運動関連因子の探索
		講師	武井 良子	500,000	連続発話における構音動態の解明と新たな構音訓練法への展望
		兼任講師	大久保 茂子	1,100,000	歯科技工士における粉塵および金属曝露の実態調査 一環境と個人曝露測定を中心として-
基盤研究(C) 看護分野		教授	大崎 千恵子	1,100,000	報告・相談のシミュレーションを可能とした看護学生向けSBAR訓練プログラムの構築
		教授	三村 洋美	700,000	高齢者のSDMと生きる証の記録を運動させたEOLケアの実装研究
		教授	田中 晶子	400,000	急性期意識障害患者の意識回復に効果のある快適刺激基準の開発
		教授	渡邊 知映	400,000	若年女性がん患者の性・生殖に関するICTを活用した支援プログラムの開発
		教授(員外)	安部 聰子	1,100,000	アイフレイルに対する簡易ビジョントレーニングの戦略的導入効果
		客員教授	川村 晴美	500,000	急性期病院で認知症高齢者をケアする看護師への認知症ケアサポートプログラムの開発
		准教授	本間 織重	700,000	感染症パンデミックに耐えうるがん看護システム構築のための有害事象評価シートの開発
		准教授	長井 雅代	1,500,000	入浴習慣を活用した動脈硬化性心血管病予防の効果
		講師	柴田 由美	500,000	口腔機能障害患者のフレイル、介護予防に関する研究 一新たな早期支援策の開発-
		講師	井出 由美	400,000	NICUの新人看護師を対象とした教育支援プログラムの普及と実用化研究
リハビリテーション分野 (理学)		講師	中澤 沙織	500,000	新卒看護師の職務定着に向けた職務満足とバーンアウトの因果モデルの開発
		准教授	上條 史子	100,000	片麻痺者の体幹機能評価の策定 -日常生活動作向上に向けて-
		講師	大塚 裕之	600,000	片麻痺患者の上肢共同運動の解明とニューロリハビリテーションの開発
		講師	来住野 麻美	1,000,000	バレエにおける下肢関節痛の発症メカニズム解明にむけた関節接触圧モデル作成
リハビリテーション分野 (作業)		講師	高木 順	1,000,000	炎症による細胞機能低下に対するTRPM8活性化冷却刺激の影響
		教授	飯塚 真喜人	1,100,000	吃逆中枢の解明: Phox2B陽性ニューロンの特異的活性化を用いて
		准教授	増山 英理子	400,000	脳損傷者における視知覚と自律神経機能評価による情動反応の可視化
助産学専攻科		准教授	中山 香映	1,100,000	母子健康手帳アプリ防災メニューを活用した公民連携防災教育プログラムの有効性の検討
		准教授	松井 真弓	800,000	出産後の女性における腰痛及び骨盤帯痛予防のための教育プログラムの構築
若手研究	看護分野	講師	犬塚 真由子	900,000	対側リスク低減乳房切除術を受けた遺伝性乳癌卵巣癌症候群女性のQOL調査
		講師	平塚 克洋	700,000	小児医療に留まる思春期・青年期慢性疾患患者の成人移行のための看護ケア指針の考案

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
若手研究 リハビリテーション分野 (理学)	教授(員外)	的場 匡亮	900,000	医療機関と患者との価値共創に関する研究	
	准教授	井上 拓保	200,000	嚥下超音波検査による咽頭残留評価の臨床活用に向けた有用性の検証	
	講師	根本 慎司	600,000	心不全患者の下肢筋収縮利用能の改善に最適な骨格筋トレーニング方法の確立	
リハビリテーション分野 (作業)	准教授	渡部 喬之	1,300,000	脳損傷者における眼球運動リハビリテーションプログラムの効果検証	
	講師	青木 啓一郎	1,300,000	ミラーセラピーと電気刺激の併用療法による脳卒中上肢リハの新規ストラテジーの開発	
研究活動 スタート支援	看護分野	講師	龍 由季乃	700,000	患者に行う排泄介助が看護師に与える癒しの要因の検証
リハビリテーション分野 (理学)	講師	浜辺 峻弥	100,000	急性期脳卒中患者の身体機能・活動状況の推移が最終転帰先におよぼす影響の検討	
	講師	大橋 夏美	(※1) 0	深部静脈血栓症予防のための理学療法手技による下肢静脈還流量の変化	

※1:研究中断に伴う継続課題のため、本年度分の入金無し

富士吉田教育部

研究種目	所属	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(B) 富士吉田教育部	教授(員外)	宮本 洋一	4,500,000	関節の恒常性維持と破綻における超硫黄分子の機能解明に基づく関節疾患治療の基盤構築	
	教授	山本 雅人	200,000	赤外光による緑膿菌とアシネットバクター・バウマニの周辺空気からの非接触検出	
基盤研究(C) 富士吉田教育部	教授	小倉 浩	400,000	多次元Hawkes過程およびHawkes Mapを用いた文書情報の可視化に関する研究	
	准教授	花田 康高	700,000	トンネル効果のfloodingに伴う量子エルゴード性の獲得について	

研究所・法人

研究種目	所属	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
学術変革領域研究(A) 臨床薬理研究所／臨床免疫腫瘍学部門	准教授	秋山 雅博	1,900,000	腸内細菌の環境ストレス制御における超硫黄分子の役割	
	講師	柿嶋 聰	3,700,000	周期的一斉開花植物を用いた6年を測る生物時計メカニズムの解明	
基盤研究(B) 臨床薬理研究所／臨床腫瘍診断学部門	講師	清水 峻志	3,600,000	ICI耐性NSCLCにおけるSiglec-9の役割	
	講師	吉岡 貴史	2,400,000	依存脱却と産業成長の両立に向けた潜在的依存症患者のエビデンスに基づく代替行動確立	
基盤研究(C) 細胞外マトリックス研究所	教授(員外)	金山 朱里	4,300,000	老化関連遺伝子を標的としたアンチセンス核酸によるMASH病態改善機構の解明	
	国際交流センター	教授(員外)	土屋 静馬	3,700,000	医師患者間・医療面接教育用AIバーチャル模擬患者の開発と医学生の学修効果の検証
基盤研究(C) 統括研究推進センター	准教授	矢野 文子	3,200,000	関節の恒常性を司る、滑膜と軟骨の連関制御機構の解明	
	教授(員外)	鶴谷 純司	1,200,000	難治性腫瘍形成における葉酸受容体とCXCL17の関連と役割解明	
先端がん治療研究所	客員教授	今村 知世	300,000	腫瘍に発現する抗原／受容体を標的とする抗体製剤のPK規定因子の探索	
	准教授	伊藤 寛晃	1,200,000	ラマン分光法を応用した食道・胃・大腸がん包括的診療システムの確立	
	助教	長谷部 友紀	1,000,000	非小細胞性肺癌における末梢血循環癌細胞(CTC)新規同定法の開発	
基盤研究(C) 臨床薬理研究所／臨床免疫腫瘍学部門	准教授	秋山 雅博	1,000,000	硫黄修飾を介した腸内細菌の代謝機能制御	
	講師	家口 勝昭	1,300,000	EphA2/ephrin-A1を介したPD-L1発現調節機構の解明と臨床応用への模索	
基盤研究(C) 臨床薬理研究所／臨床腫瘍診断学部門	講師	大西 伸幸	1,100,000	腫瘍浸潤リンパ球特異的発現分子群の機能解析	
	准教授	原田 努	400,000	とろみ水を用いた服薬における錠剤の崩壊遅延機構の解明と改善方法の検討	
基盤研究(C) 発達障害医療研究所	准教授	太田 晴久	1,200,000	ADHDに伴う感覺過敏の脳神経基盤の解明と治療可能性の検討	
	講師	板橋 貴史	1,400,000	中脳ドーパミン作動システムに着目した自閉スペクトラム症の脳神経回路の検討	
基盤研究(C) 富士山麓自然・生物研究所	講師	柿嶋 聰	1,000,000	送粉者誘引メカニズムの進化の視点から探るマムシグサ節の種の実体解明	
	教授	中尾 瞳宏	1,200,000	職域における適応障害(適応反応症)の病態解明と心理療法プログラムの開発	

研究種目	所属	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(C) ストレスマネジメント研究所	助教	倉田 由美子	600,000	健康支援サービス：フェムテックを目指した更年期女性のセルフケアプログラムの開発	
	臨床疫学研究所	教授	長谷川 耕	1,000,000	情報通信技術を活用した診療ガイドライン策定・改訂に資する人材育成プログラムの構築
	統括研究推進センター	教授	三邊 武彦	2,700,000	とろみ調整食品はTDMが必要な医薬品の薬物動態に影響を及ぼすか？
	医学英語教育センター	准教授	大野 真機	900,000	腸内細菌叢による免疫チェックポイント阻害薬の効果予測モデルの開発とパッケージ構築
	認定看護師教育センター	講師	岩瀬 万里子	900,000	精油の安全性に関する検討～ローズマリー精油は薬物の体内動態に影響を与えるのか
	横浜市北部病院消化器センター	特任教授	工藤 進英	1,300,000	陷凹型早期癌のオルガノイドを用いた大腸癌浸潤・転移の再現と機序解明
	挑戦的研究(萌芽)	臨床薬理研究所／臨床腫瘍診断学部門	和田 聰	1,500,000	ドライバー遺伝子変異に伴うPD-L1糖鎖構造の解明及び個別化治療への挑戦
	臨床薬理研究所	講師	山本 明和	400,000	3次元OCT画像を基軸としたAIによる急性心筋梗塞病因診断の確立
	兼任講師	木村 篤史	1,000,000	チアミンによるアルツハイマー病の予防・進行抑制機序の多面的解明：基礎から臨床へ	
	発達障害医療研究所	助教	直江 大河	1,400,000	談話における言語表現が自閉スペクトラム症者の感情に与える影響とその神経基盤の解明
若手研究 臨床疫学研究所	講師	藤原 泰央	1,900,000	蘇類・苔類におけるゲノムサイズと倍数体種分化に着目したゲノム多様性進化の研究	
	講師	山路 野百合	1,200,000	がんの子どもと家族を中心としたコミュニケーションの探求とその普及に関する研究	
	講師	井上 紀彦	1,000,000	診療情報データのバリデーションとイベント発生特定	
	細胞外マトリックス研究所	助教	宮内 彩	1,300,000	メカニカルストレス応答性分子を標的とした新規変形性膝関節症創薬シード化合物の創出
	兼任講師	田辺 桃子	(※1) 0	統合失調症関連遺伝子WDR3欠損による認知機能および疾患感受性への影響	
特別研究員奨励費 細胞外マトリックス研究所	講師	塙田 愛	500,000	ワイン残渣由来ポリフェノールの経口摂取による体内動態と美白作用のメカニズム	
	講師	大澤 恵里	400,000	残響下の時間長知覚に対する残響曝露の効果	
※1:研究中断に伴う継続課題のため、本年度分の入金無し					

6月以降採択者

研究種目	研究科・所属／分野	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
挑戦的研究(萌芽)	■医学研究科／生化学分野	講師	森戸 大介	3,500,000	異なる二種のもやもや病モデル構築に向けて
	■歯学研究科／口腔病理学分野	准教授	田中 準一	2,700,000	ヒトiPS細胞由来口腔粘膜上皮を基軸とした口腔再生医療の基盤技術開発
	■統括研究推進センター	准教授	矢野 文子	1,500,000	超硫黄分子を応用した運動器疾患治療薬の開発
	■医学研究科／医科薬理学分野	助教	船山 英治	800,000	難消化性タンパク質の腸内細菌代謝を介した抗腫瘍免疫作用の解明
	■歯学研究科／歯内治療学分野	助教(歯科)	奈良 麻衣	1,000,000	根尖性歯周炎における唾液腺免疫応答と口腔ディスバイオースの連関
研究活動スタート支援	助教	佐藤 太朗	1,000,000	睡眠時プラキシズム患者由来iPS細胞を用いた神経機能異常と遺伝的背景の解明	
	助教(歯科)	山森 庄馬	1,100,000	メタルフリーインプラント材料Ce-TZP/Al2O3における細胞接着機能の基礎的検討	
	助教(歯科)	河田 蘭子	900,000	義歯装着患者の栄養状態に対する寄与因子の検討	
	助教(歯科)	芦田 圭介	1,200,000	フェイススキャナーによる仮想咬合器による補綴装置の製作と治療効果に関する戦略的研究	
	助教(歯科)	片桐 崇史	1,100,000	睡眠時プラキシズム特異的iPS細胞由来神経細胞のカルシウム応答の検証	
■歯学研究科／顎顎面口腔外科学分野	兼任講師	酒向 遥香	1,000,000	全部床義歯装着者に対する食事指導の長期的影響の検討	
	助教(歯科)	前村 美希	900,000	超硫黄分子による腱の異所性骨化制御と新規治療法の探索	
	助教(歯科)	籠谷 董(小倉)	1,500,000	アイトラッキングシステムと患者ロボットを用いた歯科臨床教育の客観的評価方法の検討	

研究種目	研究科・所属/分野	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
研究活動 スタート支援	■ 歯学研究科／歯科矯正学 分野	助教(歯科)	濱坂 和大	1,000,000	網羅的トランскリプトーム解析による変形性頸関節症の病態メカニズムの解明
	■ 保健医療学研究科／リハビリテーション分野	普通研究生	廣瀬 韶哉	800,000	作業療法におけるEvidence-practice gapを踏まえた教育プログラムの開発
	■ 細胞外マトリックス研究所	助教	野口 雅仁	1,100,000	TGF-β応答性分子を介した線維化関連遺伝子の転写発現制御メカニズムの探索

総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試・卒業生推薦入試・編入学試験結果

令和8年度総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試、卒業生推薦入試、編入学試験を旗の台キャンパスで実施し、合格者が決定した。詳細は表のとおり。

総合型選抜入試結果

学部	試験日	募集人員	志願者数	合格者数
歯学部	書類審査: 現地受験なし 試験:10月4日	8	62	9
薬学部		20	51	20
看護学科		15	127	15
保健医療学部	10月4日	8	38	8
リハビリテーション学科		9	15	13
理学療法学専攻				
リハビリテーション学科				
作業療法学専攻				

学校推薦型選抜入試・卒業生推薦入試・編入学試験結果

学部	試験区分	試験日	募集人員	志願者数	合格者数
医学部	学校推薦型 ^(※1)	11月16日	12	74	12
	卒業生推薦		10	60	10
	学校推薦型 ^(※2)		29	70	30
歯学部	卒業生推薦	11月16日	7	18	7
	編入学		若干名	24	4
	学校推薦型 ^(※2)		51	60	43
薬学部	卒業生推薦	11月16日	10	2	2
	学校推薦型 ^(※2)		43	141	48
	卒業生推薦		3	1	0
看護学科	卒業生推薦	11月16日	10	5	3
	編入学		11	40	15
	学校推薦型 ^(※2)		1	0	0
保健医療学部	リハビリテーション学科	11月16日	9	5	5
	理学療法学専攻		作業療法学専攻	卒業生推薦	卒業生推薦
	リハビリテーション学科		1	0	0
リハビリテーション学科	学校推薦型 ^(※2)		9	5	5
	作業療法学専攻		1	0	0
	卒業生推薦				

※1 公募 特別協定校を含む ※令和8年度入試より学校推薦型選抜入試(公募)を新設

※2 公募・指定校・特別協定校を含む

大学院保健医療学研究科 令和8年度春季入学試験結果

研究科	試験区分	日程	募集人員	志願者数	合格者数
保健医療学	博士前期課程	春季	20名	25名	16名
研究科	博士後期課程	春季	6名	5名	3名
			合計	26名	30名
					19名

看護専門学校令和8年度学校推薦型選抜入学試験(指定校・公募)、学士・短期大学士選抜入学試験を11月3日、同校で実施した。当日は学力試験と面接試験を行い、11月6日に合格者計76名が発表された。一般選抜入学試験は1月12日に実施、13日に合格発表を行った。詳細は次回4月号に掲載。

試験区分	試験日	募集人員	志願者数	合格者数
看護専門学校	推薦	11月3日	70名	44名
	学士		20名	35名

令和7年度

永年勤続者表彰

今年度の表彰者は勤続35年42名、勤続25年56名、勤続15年141名。

本学で永きにわたり職務に精励し、本学の発展に貢献した職員を表彰する永年勤続者表彰により239名の職員が表彰された。

【令和7年度 永年勤続表彰者】

35年表彰者(42名) ※敬称略

福山 麻衣子 旗の台校舎 統括看護部付(出向)

生井 真樹 旗の台校舎 施設部施設課監視室

齋藤 朋尚 旗の台校舎 施設部施設課監視室

中山 道広 旗の台校舎 学事部大学院課

坂本 友美 旗の台校舎 キャリアマネジメント室事務室

渡邊 裕之 長津田校舎 リハビリテーション学科理学療法学専攻

金丸 みつ子 富士吉田校舎 富士吉田教育部

倉田 知光 富士吉田校舎 富士吉田教育部

関戸 敦 昭和医科大学病院 管理課

緒方 まさ美 昭和医科大学病院 患者相談窓口

中村 明弘 昭和医科大学病院 薬剤部

清野 桂子 昭和医科大学病院 臨床検査室臨床検査部門生理検査室

佐藤 由香 昭和医科大学病院 臨床検査室超音波検査部門超音波検査室

坂本 圭三 昭和医科大学病院 臨床工学室(CE)

赤荻 賢司 昭和医科大学病院 リハビリテーション技術部

山本 明子 昭和医科大学病院 腫瘍センター

高野 昌代 昭和医科大学病院附属東病院 管理課

古谷 千恵子 昭和医科大学病院附属東病院 臨床検査室臨床検査部門臨床検査室

角田 真里子 昭和医科大学藤が丘病院 管理課

神越 英夫 昭和医科大学藤が丘病院 防災センター

川口 由美 昭和医科大学藤が丘病院 臨床検査室臨床検査部門検体検査室

北井 仁美 昭和医科大学藤が丘病院 臨床検査室超音波検査部門超音波検査室

小笠 佳史 昭和医科大学藤が丘病院 リハビリテーション技術部

平川 真由美 昭和医科大学藤が丘病院 看護部

神田 悅子 昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院 管理課

新井 祐司 昭和医科大学横浜市北部病院 臨床検査室臨床検査部門

遠藤 結香里 昭和医科大学横浜市北部病院 6階B病棟

饒村 ひとみ 昭和医科大学江東豊洲病院 医事外来課

鈴木 誠二 昭和医科大学江東豊洲病院 医事外来課

柴田 由紀 昭和医科大学江東豊洲病院 医事入院課

加藤 幹夫 昭和医科大学江東豊洲病院 医事入院課

佐藤 成子 昭和医科大学江東豊洲病院 臨床検査室臨床検査部門生理検査室

岩城 隆宏 昭和医科大学江東豊洲病院 臨床工学室(CE)

土工 くみ子 昭和医科大学江東豊洲病院 レントゲン検査室

石原 ゆきゑ 昭和医科大学江東豊洲病院 外来

山菅 智美 昭和医科大学烏山病院 図書室

各務 友美 昭和医科大学烏山病院 事務課

松本 文栄 昭和医科大学烏山病院 看護部

吉屋 由紀子 昭和医科大学烏山病院 B3病棟

津川 育 昭和医科大学烏山病院 C3病棟

土屋 二美 昭和医科大学歯科病院 事務課

古原 聰美 昭和医科大学歯科病院 栄養科

25年表彰者(56名) ※敬称略

稻葉 みゆき 旗の台校舎 口腔解剖学

高仲 尊子 旗の台校舎 口腔生化学

今村 絵里 旗の台校舎 歯科薬理学

柴田 陽 旗の台校舎 歯科理工学

中村 明央 旗の台校舎 総合情報管理センター

佐々木 真 旗の台校舎 人事部人事課

伴 香おり 旗の台校舎 学士会

鵜飼 直紀 旗の台校舎 学事部学事課

松原 友和 旗の台校舎 学事部学事課

伊東 真絵 旗の台校舎 図書館

西中 直也 長津田校舎 リハビリテーション学科理学療法学専攻

塙川 優子 昭和医科大学附属看護専門学校 教員室

野沢 姫佐子 昭和医科大学病院 消化器内科

笠井 史人 昭和医科大学病院 リハビリテーション科

野村 靖子 昭和医科大学病院 小児科

扇谷 芳光 昭和医科大学病院 放射線科

北原 佳代子 昭和医科大学病院 医療安全管理室

安原 美樹 昭和医科大学病院 患者相談窓口

学内会議報告



就任のお知らせ(10月14日 理事会承認)

特任教授

深貝 隆志



医学部泌尿器科学講座担当 教授
[勤務地: 昭和医科大学病院泌尿器科]
理由: 昭和医科大学病院医療安全担当のため
任期: 令和8年4月1日~令和9年3月31日

特任教授

信太 賢治



医学部麻酔科学講座担当 教授
[勤務地: 横浜市北部病院麻酔科]
理由: 横浜市北部病院麻酔科診療のため
任期: 令和8年4月1日~令和9年3月31日

特任教授

富士 幸藏



医学部泌尿器科学講座担当 教授
[勤務地: 横浜市北部病院泌尿器科]
理由: 泌尿器科の診療のため
任期: 令和8年4月1日~令和9年3月31日

特任教授

池田 尚人



医学部脳神経外科学講座担当 教授
[勤務地: 江東豊洲病院脳神経外科]
理由: 昭和医科大学シミュレーションセンター担当のため
任期: 令和8年4月1日~令和9年3月31日

特任教授

丹野 郁



医学部内科学講座循環器内科学部門担当 教授
[勤務地: 江東豊洲病院循環器内科]
理由: 江東豊洲病院循環器内科診療のため
任期: 令和8年4月1日~令和9年3月31日

特任教授

田中 大介



保健管理センター 教授
理由: 保健管理センター所長のため
任期: 令和8年4月1日~令和9年3月31日

特任教授

柴田 孝則



医学部内科学講座腎臓内科学部門 客員教授
理由: 保健医療学部新学科・新専攻の臨床工学専攻教育のため
任期: 令和8年4月1日~令和9年3月31日

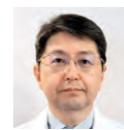
特任教授 繼続 任期: 令和8年4月1日~令和9年3月31日

小出 良平 小口 江美子 佐野 俊二 久光 正 九島 巴樹
富田 英 加賀美 芳和 岡本 健一郎 大久保 文雄 宮崎 隆
瀧本 雅文 門倉 光隆 寺田 友昭 植 玄秀 村上 雅彦
鈴木 尚志 長谷川 真 平井 康昭 福成 信博 下司 映一
桑迫 勇登 山上 裕機 小林 一女 橋本 東児 横 宏太郎

荒木 和之 伊藤 純治 田中 周一 落合 正彦 坂下 晓子
永田 茂樹 中村 明弘 本田 一穂 木内 祐二 角田 卓也
水谷 徹 林 宗貴 安次富 隆 小谷 透 (以上、39名)

就任のお知らせ(11月11日 理事会承認)

医学部内科学講座(消化器内科学部門) 担当 教授
[勤務地: 江東豊洲病院消化器センター消化器内科]



伊藤 敬義

医学部内科学講座(消化器内科学部門) 担当 教授(員外)
[勤務地: 江東豊洲病院消化器センター消化器内科]
任命日: 令和7年11月11日

医学部外科学講座(心臓血管外科学部門) 担当 教授(員外)
[勤務地: 昭和医科大学病院心臓血管外科]



桑木 賢次

東海大学医学部付属病院心臓血管外科 教授
任命日: 令和8年1月1日

医学部外科学講座(消化器一般外科学部門) 担当 教授(員外)
[勤務地: 横浜市北部病院外科系診療センター外科]



福島 光浩

医学部外科学講座(消化器一般外科学部門) 担当 准教授
[勤務地: 横浜市北部病院外科系診療センター外科]
任命日: 令和7年11月11日

医学部内科学講座(消化器内科学部門) 担当 教授(員外)
[勤務地: 江東豊洲病院消化器センター消化器内科]



浦上 尚之

医学部内科学講座(消化器内科学部門) 担当 准教授
[勤務地: 江東豊洲病院消化器センター消化器内科]
任命日: 令和7年11月11日

保健医療学教育推進室長



加茂野 有徳

保健医療学部保健医療学教育学 准教授
任命日: 令和7年11月1日

特任教授 繼続 令和8年4月1日~令和9年3月31日
米良 仁志 (以上1名)

理事会関係

◆令和7年度活性化推進委員会実行計画について

各プロジェクトからの答申に基づき、法人・大学活性化推進委員会、病院活性化推進委員会が策定した実行計画が承認された。

【法人・大学活性化推進プロジェクト】

- ①保健医療学部新学科・新専攻、横浜看護専門学校の入学志願者増加対策検討プロジェクト
- ② (1) 1年次指導担任制度改革検討プロジェクト
(2) 指導担任制度(1年次を除く)改革検討プロジェクト
- ③創立100周年記念 特別広報戦略検討プロジェクト

【病院活性化推進プロジェクト】

- ①昭和医科大学病院の外来ブース有効活用・運用検討プロジェクト
- ②1次・2次救急体制検証プロジェクト
- ③一般病棟(戻りベッド)運用見直し検討プロジェクト

◆昭和医科大学病院緊急対策委員会設置について

昭和医科大学病院の令和7年度事業活動収支(4月~8月)の状況から昭和医科大学病院緊急対策委員会を設置することが承認された。また、当該委員会設置に伴う、法人委員会関連組織図の変更についても併せて承認された。

◆富士吉田キャンパス新実習棟(建設中)名称について

【趣旨】富士吉田キャンパス内に建設中の実習棟の名称を2号館とし、建物内の教室名称を定義に基づき、決定する。

【定義】教室名称は三桁の数字とし、「号館名称 階数 通し番号」の順に附番する。なお、教室をパーテーションで区切れる教室は、A・Bとして分ける。

【例】(現在の図面上の呼称: 新実習棟1階 形態機能実習室A)
2号館、1階、1教室 → 教室名称: 211教室

【施行日】令和8年4月1日

◆令和7年度事業計画変更・追加について

【変更事項】

部門	事業計画	計画実施年度
昭和医科大学病院		[変更前] [変更後]
東病院		
藤が丘病院	電子カルテ情報	令和7年度
リハビリ病院	共有サービス導入	令和8年度に実施予定
北部病院		

【追加事項】

部門	事業計画	概要
法人	鷺沼キャンパスネットワーク構築	令和7年度に計画のみ追加 鷺沼キャンパスネットワーク構築 ※参考 令和8年度に2/2期を実施予定
東病院	東病院非常用発電機の部品交換	経年劣化による 部品交換等の修理実施

学務関係

◆学部間協定締結について

学生の相互交流を中心とした国際交流活動を推進するため、下記の大学と学部間協定を締結した。

○昭和医科大学医学部

- ・マヒドン大学シリラート病院医学部(タイ)
- ・ワライラック大学医学部(タイ)
- ・プリンス・オブ・ソンクラー大学医学部(タイ)

○昭和医科大学保健医療学部

- ・プリンス・オブ・ソンクラー大学医学部(タイ)

*医学部の中に理学療法学科を有する

— 生協は学園生活のパートナーです —



昭和医科大学生活協同組合

旗の台: 3788-2322(内線)8268 アミ: 3785-9729(内線)8369
吉田: 0555-23-8505 洗足: 3787-4432 横浜: 045-985-9624

昭友商事は皆様をあらゆる面でサポートし、貢献いたします。

昭和医科大学オリジナル商品の販売

NLローソン・クリーズコーヒー運営

各種旅行・イベント手配業務

アウトソーシングサービスほか

昭友商事株式会社 〒142-0064 品川区旗の台1-8-16

i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

リカレントカレッジ事務室

リカレントカレッジ 2026年度春期プログラム受講生募集中

リカレントカレッジでは、2026年度春期プログラムの受講生を募集しています。定番の講座から新規開講講座まで多彩なプログラムを取り揃えております。今回は4月に開講する講座をご紹介します。資料請求・講座申込はリカレントカレッジホームページをご覧ください。



講義風景

【4月開講】申込締切：2026年3月20日(金)

プログラム名	講師(敬称略)
アンチエイジングのための山歩(さんぽ) ～新緑と富士登山準備～	原口 省吾
人生がハッピーになる大人のためのオシッコ学	小川 良雄
医療と死生観～人生の意味・役割を問う～	高宮 有介
この事件を裁くのはあなたです	城 祐一郎
アンチエイジングのための山歩(さんぽ)レベル2 ～より安全に山歩する技術～	原口 省吾
コミュニケーションスキルを身に付けよう	後藤 理英子
「身体の変化」を楽しむランニング講座 ～運動の仕組みを楽しく学び、前向きな運動習慣化を！～	黒川 遼
ハリウッド式！大人から始める初めてのボイストレーニング ～楽しく歌って、心も体も元気になろう！～	金丸 明日香
歴史に隠れた病気を探る	小川 良雄
人生100年時代を軽やかに！体と心の健康エクササイズ	曾我 武史
生活習慣を見直して健康寿命を延ばそう！	小風 晓
はじめての薬膳茶レッスン♪ 美味しく、簡単に、綺麗になろう ～和洋中の薬膳ハーブを味わい、楽しもう～	大塚 まひさ
宇宙教育のすすめ～身边にある宇宙・天文技術の共有～	和田 直樹
健康を維持するための筋トレ・栄養学 ～人生100年を有意義に過ごすためのWell beingを考える～	蜂須 貢
今がその時、「武道」を通じて 「唯一無二の人生」を手に入れる	牧浦 知輝
ワインの基礎を学んでみませんか？～ワイン初級講座～	鈴木 満

プログラム名	講師(敬称略)
映画に見る「小津安二郎と弱い家父長」	内田 樹
刻書を知る～表札を作つてみよう！～	新井 平八郎
ハリウッド式！歌うように話せる！ボイストレーニング ～声帯の筋トレで人を魅了する声を手に入れよう！～	金丸 明日香

※定員に達し次第、受付を終了いたします。

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

お問い合わせ 昭和医科大学リカレントカレッジ事務室

電話 : 03-3784-8143



昭和医科大学学士会

第72回昭和医科大学学士会総会を開催

2025年11月29日に旗の台キャンパス4号館にて、第72回昭和医科大学学士会総会を開催しました。

まず、一般演題、学位論文内容発表の51演題を2階から4階の6教室にて行いました。

続いて600号教室にて、上條由美新会長のご挨拶、【年次報告】、そして【昭和医科大学学士会学術奨励賞】の授与が行われました。この賞には、2024年発刊の学会誌に掲載された原著論文で、投稿時に筆頭著者40歳未満の中から7論文の著者が選ばれ、表彰されました。

また、【教育講演】では、医学部の深貝隆志教授に「多様化する前立腺癌治療の最前線」、歯学部の塚崎雅之教授に「骨免疫学の新時代へ向けて」、保健医療学部の西中直也教授に「自らの肩痛に終止符を—臨床知見とエビデンスで紐解く五十肩・肩こり」をご講演いただきました。

会場とライブ配信を併用したハイブリッド開催に、600号教室には111名、ライブ配信にて46名と多くの方々にご参加いただきました。



1 昭和医科大学学士会学術奨励賞の受賞者と上條会長 2 上條由美 新会長 3 教育講演1 深貝隆志 教授 4 教育講演2 塚崎雅之 教授 5 教育講演3 西中直也 教授

2025年度 昭和医科大学学士会学術奨励賞 受賞者(敬称略)

Impact of head and neck volume reduction on prescribed dose in patients with oropharyngeal and hypopharyngeal cancer using the tomotherapy system

藤井 智希
昭和大学大学院保健医療学研究科

腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法における椎間板の水分含有量評価の有用性について～MRI検査画像から求められるT2 mappingの有用性～

秋葉 泰紀
昭和大学大学院保健医療学研究科

Patient factors affecting the distribution of hydrogel spacers in combination with permanent prostate brachytherapy

西村 公太
昭和大学江東豊洲病院泌尿器科

cDNAを鋳型としたBIOMED-2PCRにおける多発性骨髄腫シークエンスの検討

島田 翔太郎
昭和大学医学部内科学講座血液内科学部門

Assessment of dental operating microscope with three-dimensional imaging for endodontic procedures

片山 卓也
昭和大学大学院歯学研究科歯内治療学分野

Simple classification system for predicting the difficulty level of laparoscopic cholecystectomy

平井 隆仁
昭和大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門

リンパ腫骨髓浸潤評価における骨髄検査およびPositron-emission tomography/Computed tomography検査の後方視的解析

上杉 由香
昭和大学医学部生理学講座生体調節機能学部門

※所属・氏名は論文掲載時のもの。

是非とも、総会で昭和医科大学学士会学術奨励賞に表彰されるような、若手研究者の原著論文のご投稿をお待ちしております。ご投稿の際は、学士会WEBサイト〈学会誌〉コンテンツをご覧ください。

お問い合わせ 昭和医科大学学士会

電話 : 03-3784-8074

メール : gakushikai@ofc.showa-u.ac.jp

上條記念ミュージアム

【校名変更記念】企画展 「旧昭和医科大学の頃」開催中！

本学の校名変更を記念して、第7回企画展「旧昭和医科大学の頃～戦後の制度改革を乗り越えた大学の発展史～」を開催中です。本展では、旧昭和医科大学時代（昭和21～39年・1946～1964年）に焦点をあて、大学設立に関する行政文書や大学施設増築に関わる図面などを展示し、専門学校から大学へと旗の台地域とともに発展してきた歴史を紹介しています。皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

【開館】

火曜日・金曜日

13:00～15:00 (予約制)

【開催期間】

2025年10月3日(金)～

2026年6月30日(火)



いつも探しています！大学や病院の歴史資料

皆さまのご自宅や勤務先に、昭和医科大学の歴史に関する資料はございませんか。

資料は「上條記念ミュージアム」にて大切に保管・展示をさせて頂きます。

これらの品々は「至誠一貫」の精神で歩んできた95余年に及ぶ昭和医科大学の歴史を後世に伝える貴重な資料となる可能性があります。皆さまからのご連絡をお待ちしております。



お問い合わせ 昭和医科大学上條記念ミュージアム

電話 : 03-3784-8031

メール : museum@ofc.showa-u.ac.jp



総務部

昭和医科大学サポート寄付制度に
ご協力いただいた方

【創立100周年記念事業募金】

同窓／目時 信之 様（医学部・37回生）、田口 進 様（医学部・38回生）、安原 一 様（医学部・38回生）、友安 茂 様（医学部・41回生）、林 裕史 様（医学部・43回生）、古橋 秀昭 様（医学部・44回生）、水川 啓子 様（医学部・46回生）、秋田 清実 様（医学部・47回生）、野中 明人 様（薬学部・6回生）、松澤 邦雄 様（薬学部・8回生）、與儀 美由紀 様（薬学部・14回生）

職員（50音順）／小口 勝司 様、小出 容子 様、佐々木 武弘 様、三邊 武彦 様、肥田 典子 様、米山 啓一郎 様

一般／政本 多美子 様、渡邊 昭 様、三協立山株式会社 様、富士テレコム株式会社 様

【奨学・研究奨励基金への寄付】

職員／野中 直子 様

【薬学部への寄付】

父母／鈴木 豊一 様

【昭和医科大学横浜市北部病院への寄付】

一般／古崎 新一郎 様

【各クラブ・学生会への寄付】

同窓／石川 岳 様（医学部・56回生）、三橋 裕一 様（医学部・62回生）、中鉢 正太郎 様（医学部・73回生）、昭和医科大学医学部同窓会学内支部 様

職員／イズデプスキ 龍也 様

※収納期間：2025年10月1日～11月30日
※本学広報媒体への掲載に同意していただけた方のみといたします

告知

本学職員が冬季五輪出場
スマイルジャパンを応援しよう！

2月4日から22日まで、ミラノ・コルティナ（イタリア）で開催される冬季オリンピックに、女子アイスホッケー日本代表「スマイルジャパン」として飯塚祐司監督（人事部）と小山玲弥選手（総務部）が出場します。

1月16日には、上條記念館で壮行会を開催し、多くの職員が応援に駆けつけました。会場は温かな雰囲気に包まれ、2人の活躍を願う声が寄せられました。

ぜひ皆さんも、日本代表への応援を！

女子アイスホッケー日本代表 試合日程（日本時間）
※現地時間は日本時間より8時間遅れ

2月6日(金) 20:10～ VS フランス	2月7日(土) 20:10～ VS ドイツ	2月9日(月) 20:10～ VS イタリア	2月10日(火) 20:10～ VS スウェーデン
------------------------------	-----------------------------	------------------------------	---------------------------------

2月13日(金)、14日(土) 準々決勝	2月16日(月) 準決勝	2月19日(木) 決勝・3位決定戦
-------------------------	-----------------	----------------------

がんばれ、スマイルジャパン！



今号の表紙写真

8・10月号で公募した新年号の表紙写真には、応募いただいた4作品の中から、鷺沼キャンパス準備室事務課の土田裕之さんの作品を選定しました。夏の早朝、富士吉田キャンパスのゲストハウスから撮影された富士山です。朝日に赤く染まる幻想的な風景ですね。みなさまのご応募、ありがとうございました。



SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

昭和医科大学新聞 通巻第629号

February 2026 令和8年2月1日発行

vol. 20

[年6回発行]

学校法人 昭和医科大学

(03) 3784-8000

〒142-8555

東京都品川区旗の台1-5-8

[本誌について]

発 行 人 小口 勝司

編 集 総務課 大学広報係

(03) 3784-8059

press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

配送停止
住所変更

のご連絡は、

こちらにお願い

いたします。

[各種基金・寄付について]

企画課 (03) 3784-8387

[学事について]

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)

(0555) 22-4403 (富士吉田)

(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026

個人情報の取扱いにご注意ください

昭和医科大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和医科大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。